

日本写真家協会会報

NO.159
(2015. Jun.)

- 写真展 「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」
- 問われる写真家の倫理観 報道写真の「加工」と「やらせ」問題
- 激変するストックフォトビジネス

JPS



Photo Misawa Takehiko

SIGMA

高い操作性と光学性能を備えた
超望遠ズームのライトウェイトモデル。
Contemporaryラインから、登場。

C Contemporary **150-600mm F5-6.3 DG OS HSM**

希望小売価格(税別) 150,000円 ケース、フード(LH1050-01)、ショルダーストラップ、
三脚座(TS-71)、Protective Cover(PT-11)付



シグマの新しいプロダクト・ラインについては、こちらへ。

sigma-global.com

Another 5.



約5060万画素もうひとつの5D登場。

EOS 5Ds 約5060万画素フルサイズCMOSセンサーを
搭載した、もうひとつの5D。

EOS 5Ds R 5Dsの解像性能を最大限に引き出す
ローパスフィルター効果キャンセルモデル。


●新開発 有効画素約5060万画素フルサイズCMOSセンサー ●映像エンジン「デュアル DIGIC 6」 ●常用ISO感度100～6400 拡張:12800 ●最高約5コマ/秒の連写性能
●61点高密度レティクルAF ●顔や色を検知して被写体を追尾する「EOS iTR AF」 ●高画素による繊細な質感を表現する新ピクチャースタイル「ディテール重視」と
新シャープネス項目「細かさ」「しきい値」 ●モーターとカムギアでミラーの駆動と速度制御を行いカメラブレを軽減する「ミラー 振動制御システム」 ●徹底的なブレ対策の
ために強化した高剛性三脚座 ●ミラーアップとシャッターボタン押しに伴うカメラブレを解消する新機能 レリーズタイミング任意設定 ●EOS初、約1.3/1.6倍クロップ撮影機能

■ Gallery	JPS ギャラリー 桜井 寛、菊地晴夫、高砂淳二、小松健一 5 木原 浩、瀬戸秀美、水越 武、池田進一
■ First Message	会長職 20 年を顧みて憶う 田沼武能 13
■ Focus	報道写真の「加工」と「やらせ」問題 広河隆一 14
■ Opinion	激変するストックフォトビジネス 諏訪博之 16
■ Zooming	写真×写真(連載 7) 河野和典 18 追悼：木之下 晃 音楽写真家・木之下 晃の作品を振り返る
■ Wonder Land	特集「日本写真保存センター」写真展 松本徳彦 20 「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」
■ Workshop	著作権研究(連載 34)クリエイター指向の新しい著作権制度とは ... 安藤和宏 28
■ Archives	「日本写真保存センター」調査活動報告(18) 松本徳彦 30 多様な表現の写真 一収集・保存した写真原板から一
■ Exhibition	第 40 回 2015JPS 展開催 熊切圭介 32
■ Topics	賛助会員トピックス 36 アマナ、キタムラ、堀内カラー、東京工芸大学、ケンコー・トキナー、 キヤノンマーケティングジャパン、リコーイメージング
■ Comment	写真解説 38
■ Congratulation	おめでとうございます「第 34 回土門拳賞」受賞 下瀬信雄さん 39
■ Digital Topics	クラウドストレージサービスによる画像データの保存 40
■ New Face	平成 27 年度 公益社団法人日本写真家協会 新入会員紹介 42
■ Message	Message Board..... 46
■ General Meeting	平成 27 年度(第 16 回)定時会員総会報告 48
■ Report	セミナー研究会レポート 49 平成 26 年度第 3 回著作権研究会、平成 27 年度第 1 回国際交流セミナー
■ Books JPS	ブックレビュー 50
■ Infotmation	物故者 = 窪田正克、木之下 晃、ふるた信晴、佐藤正治、安達一郎 54 ／経過報告／編集後記
■ International	日本写真家協会の沿革(英文) 56
■ Technical	エプソンのデジタルプリント最前線 64 作品のプリント制作に活用したいエプソンの「プライベートラボ」 表紙：三澤武彦、表 4・吉村和敏

広告案内


- (株) シグマ
- (株) ニコンイメージングジャパン
- (株) マッシュ
- キヤノンマーケティングジャパン(株)
- リコーイメージング(株)
- Photo Gallery Artisan
- ニコンサロン
- (株) 日経ナショナルジオグラフィック
- (株) 堀内カラー
- (株) タムロン
- 富士フイルム(株)
- エプソン販売(株)

At the heart of the image




GINZA ● SHINJUKU ● OSAKA


ニコンサロンは、写真文化の向上を目的とした展示スペースです。



〒104-0061 東京都中央区銀座7-10-1
STRATA GINZA 1F ニコンプラザ銀座内
電話(03)5537-1469 開館10:30~18:30
最終日は15:00まで



〒163-1528 東京都新宿区西新宿1-6-1
新宿エルタワー28階 ニコンプラザ新宿内
電話(03)3344-0565 開館10:30~18:30
最終日は15:00まで



〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-2
ビルトンプラザウエストオフィスタワー13階ニコンプラザ大阪内
電話(06)6348-9698 開館10:30~18:30
最終日は15:00まで

詳しくは下記ホームページまたはニコンサロン事務局にお問い合わせください。
<http://www.nikon-image.com/activity/salon/>

株式会社 **ニコン** フォトカルチャー支援室 ニコンサロン事務局
 〒108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟 電話(03)6718-3028



世界遺産ランドヴァッサー橋——櫻井 寛
写真集『欧州鉄道の旅』



青い流れ、水辺に咲く——菊地晴夫
写真集『日本で最も美しい大地—美瑛 丘のある風景』



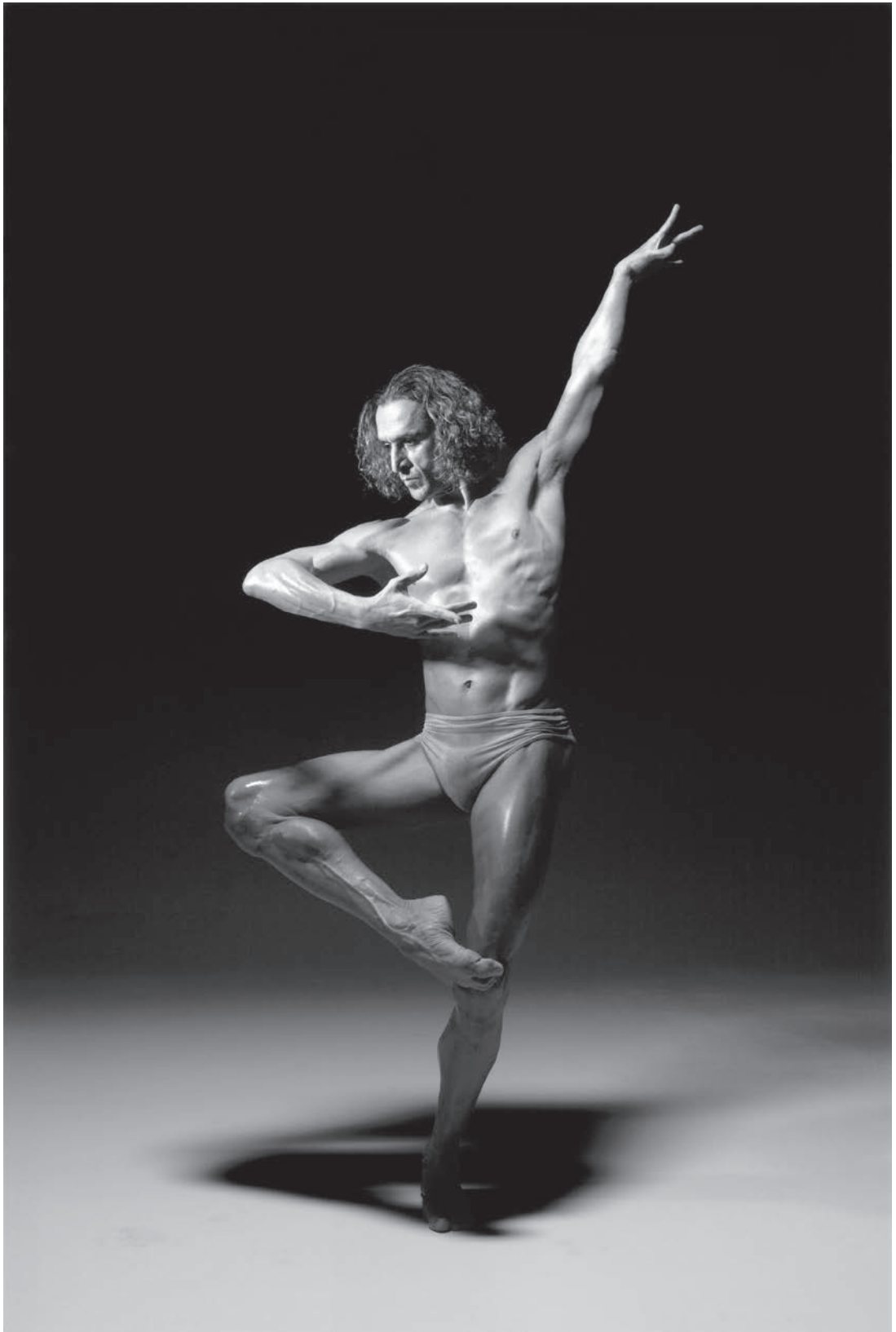
JUMPING IN THE SUNSET ——高砂淳二
写真集・写真展「aqua」



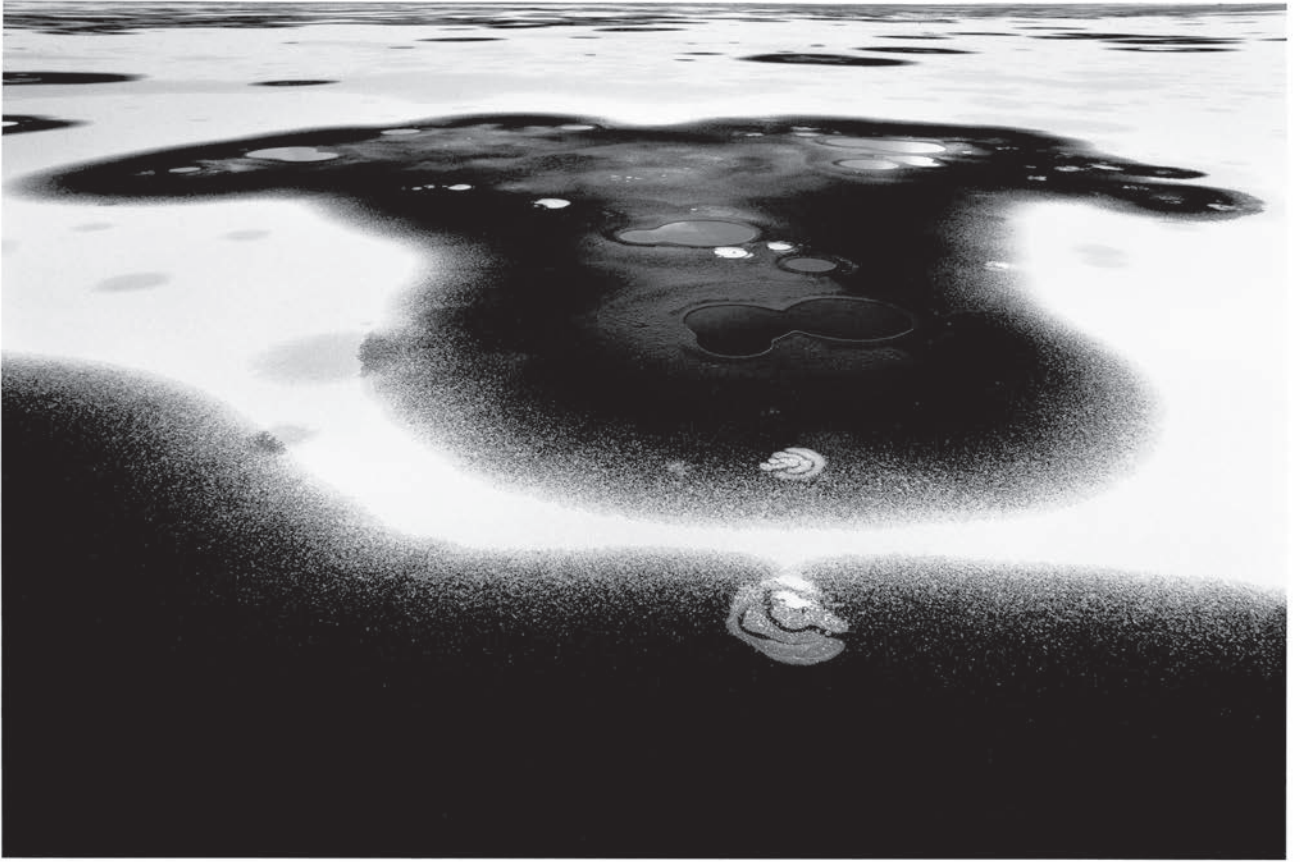
三國志巡禮——小松健——
写真展「三國志巡禮—67.000kmの旅」



プヤ・ライモンディイ——木原 浩
写真集・写真展「世界植物記 アフリカ・南アメリカ編」



孤高の肉体——瀬戸秀美
写真集『FARUKH RUZIMATOV』



湖面の造形 屈斜路湖——水越 武
写真集『真昼の星への旅』



岩手県、久慈の朝市——池田進一
写真集『東北朝市紀行』

会長職 20 年を顧みて憶う

前会長 田沼 武能

平成 27 年の総会を無事終了した時点で私は会長職を辞し、当日開かれた新理事会で次期会長に熊切圭介氏を推薦し、承認された。

私が会長に就任したのは 1995 年、いまから 20 年前であった。その 6 年前に理事総辞職をした後遺症を背負った協会激動期で、総会では社団法人化とともに写真家ユニオンの設立、写真の著作権を文芸美術と同じ「保護期間を著作者の死後 50 年にする」という重責を担い出発した。

まず文化庁との関係修復から始めなければならなかった。(これに関しての詳細は、JPS 会報 123 号の巻頭言に書かれている)

文化庁は当協会の役員総辞職で生まれた写真作家協会は、協会が分裂したものと見ており、一つの鞘に戻すことを要求された。当時衆議院議員であった森山真弓先生に仲介の労をとっていただき、両協会の話し合いが始まった。何度も折衝を重ねたが、総論賛成だが各論反対で進展がない。そこで互いに内政干渉をしない旨の覚え書きを交わして、それを文化庁に提出して了承を得た。これで文化庁とは正常な関係に戻り、社団法人の申請作業が再開できた。

一方、写真の著作権法の改正は創立当初からの問題で、運動を続けていた。1965 年には写真界全体の問題にすべく「全日本写真著作者同盟」を設立発足し、関係議員の先生方の理解を得るため、議員会館の中で各事務所を訪ね、私たちの主旨を陳情する日々が続き、1970 年に「公表後 50 年」の改正法案が成立した。その時に「写真著作権については、今後すみやかに検討する」との付帯決議がついたのだが、これが成立するには、更に 26 年の歳月がかかり、1997 年に写真著作権は死後起算 50 年に、やっと文芸・美術と同じ権利を得たのである。しかし、1956 年以前の写真著作権は法律による不遡及の原則により、現実としてはなかなか進まない。文化庁は、使用者側の同

意を得れば動き出すとのことだが、NHK の担当者には暗黙の了解を得たのだが、新聞、民放の関係はあまりに対象会社が多く遅々として進んでいない。出版関係では文芸・美術並みの扱いになっている。

社団法人化問題は、2000 年に J P S は創立 50 周年を迎えるので、それまでに許可して欲しいと機会あるごとに文化庁関係者をお願いした成果もあり、50 周年最後の日、2001 年 5 月 11 日に許可が下り、会長、副会長、専務理事が文化庁長官室に呼ばれ、許可証を頂いてきた。長年の念願であった社団法人になれたことは喜びであった。もう一つの写真家ユニオンの設立は、社団法人との財産の分割問題で話し合いを終え、ユニオンは協同組合として設立許可申請を行い、初期の目的通り二つの団体となり発足した。会長就任後、約 5 年で約束を果たすことができたのであった。そして 50 周年を機に創立会員全員を名誉会員に推挙したが、私だけは会長を務める関係で名誉会員を辞退した。また、50 周年の祝賀会会場で物故先輩たちの遺したフィルム保存の必要性を発表した。即ち日本写真保存センターの原点はここから始まった。この創立 50 周年を境に日本写真家協会は大飛躍を遂げ現在に至っている。事業規模は、私が会長に就任した当時の 3 倍以上になっている。それらの成果が協会の信頼を作り出しているのだ。

勿論これらの成果は会長一人が行ったのではない。副会長を始め専務理事、理事及び会員の方々、事務局の協力があってこそであり、この場を借りて深く感謝申し上げる。

今回私が理事として残ったのは、2006 年に設立した写真保存センターのことがあるからで、これを軌道に乗せるまではなんとかしてでも頑張りたいと思っている。会員の皆様は新会長のもとで協会を益々信頼ある団体にするためご尽力されることを望みます。

◆「虚偽」に揺れた WPP2015

先月号(2015年4月号)のDAYS JAPANに私は、「世界報道写真コンテスト(WPP)虚偽・失格で問われる写真家の倫理観」と題する文章を載せた。これは世界最大の写真コンテストWPPで、大賞を受賞した作品に「虚偽」が発覚したため、失格となったというニュースを受けて、フォトジャーナリズム界に激震が走った件について書いたものである。

WPPでは最終審査に残った作品の22%に、問題のある「加工」が見つかったため、失格となったという。スポーツ部門では、最終審査に残った作品のほとんどが「加工」されていたとして、2作品だけが残り、それらが受賞した。

大賞受賞の発表の後に失格を言いわたされた作品は、イタリアのジョバンニ・トロイロ氏によるもので、ベルギーのシャルルロワ市のルポである。彼によって書かれた説明文では「シャルルロワでは、市民が社会不安にさいなまれ、街は荒廃し、工場は閉鎖され、ゆがんだ性的嗜好や差別的な人種憎悪、精神疾患や肥満、薬物乱用が蔓延している」とある。

つまりこれはEUの問題の縮図であり、すべての国々の辿る未来の道を予測したものとなっている。彼は「ヨーロッパの暗部、シャルルロワが直面する問題は、今日のヨーロッパに突き付けられた問題だ」と書いた。

受賞が発表された後、シャルルロワの市長が抗議の手紙を送った。トロイロは故意にこの街が問題をはらんでいると見せようと、やらせを行ったというのだ。

その一つは、薄暗い部屋にかすかにさす明かりに浮かび上がる、肥った裸の男が椅子に座る写真だ。確かに不安をかきたてられ、問題をはらむ光景に見える。この写真に対して、市長はWPPに、この被写体である男は比較的平和な地域に住んでおり、彼の素晴らしい家はワインバーであると書き、その証拠として彼が「家で人生を謳歌している」ビデオを送りつけてきた。

さらに「ゆがんだ性的嗜好」の例として撮られたカーセックスの写真のモデルは、写真家の近親者であるとあばいた。

しかしこうした抗議の後、WPPがこの作品を失格と決めた理由は、こうした「やらせ」という理由からではなく、作品の一枚がシャルルロワではなく、ブリュッセルで撮影されたことが、別の写真家によって報告されたからだとした。

フォトジャーナリズムの最高権威とされてきたWPPの信頼が大きく揺らいだ。ニューズウィーク誌がこれを報じ、AFP通信がこのニュースを配信した。南仏の街ベルビニャンで世界最大のフォトジャーナリズム・フェスティバルを開催する

VISA プール・イマージュのディレクターであるジャン・フランソワ・ルロワは、今日のVISA展ではWPP展を開催しないと宣言した。

私はこのVISAの最終審査員をしている。そして今年は写真家協会の名取洋之助賞の審査員をひきうけ、さらに早稲田ジャーナリスト大賞やDAYS国際フォトジャーナリズム大賞の審査員もしている。私にとっても全く他人ごとではすすすわけにはいかない問題である。

4月末、こうした問題が徹底的に議論されると伝えられたので、オランダのアムステルダムに飛んだ。そして4月24日と25日、運河に面するカンパニーシアターの建物で行われた、授賞式とシンポジウムに出席した。

私はこの会期中に、WPP2015年審査委員長のマイク・マクナリーとWPPのマネージング・ディレクターのラース・ボーリングにインタビューを行った。

◆ WPP 審査委員長へのインタビュー

——コンテスト審査の進め方について教えてください。

「審査はまず各部門専門の審査員おのおの3人ずつで行われます。それぞれ、ポートレート、科学・環境、スポーツ、ドキュメンタリー、現代の問題、一般ニュース部門の審査を行い、1次審査で約10万点だった写真が、一週間後の2次審査に残るのは1万5000～1万8000点程度になります。

2次審査から審査員が変わり、この審査を通過した写真家には、RAWデータの提出を求めます。そして2人の専門家が写真のデジタル加工の痕跡をチェックし、その詳細を審査員に報告し、それを受け審査員は、作品が審査基準を満たしているか判断します。

最終審査では、各部門1位を受賞した作品、もしくは組写真の各部門1、2、3位を決めます。そして、シングル写真の各部門の1～3位を受賞した作品の中から、大賞候補が選ばれます。そこで議論をやめ、審査委員長を含む7人の無記名投票で大賞が選ばれます」

——トロイロの大賞受賞が決まってから、どれくらいでやせと発覚しましたか？

「シャルルロワ市長の抗議の手紙を受け取った時です。矛盾を指摘され、それでWPPも調査に乗り出しました。それは、厳しい調査でした。そして調査書を作成しました。私たちは調査報告がほしかったのです。しかし調査が進行中に、キャプションに誤情報があるとか、写真がやらせだったとか、より多くの証拠をベルギーのジャーナリストが指摘しました。それでチェ

ックした結果、最終的にはWPPのマネージング・ディレクターや取締役会長によって賞は取り消されたというわけですね」
 ——大賞取り下げの理由が、場所の誤情報のみしか上げられていないのはなぜでしょうか？ やらせなどは理由になっていないですね？

「WPPには、やらせについてのルールがなかったのです。今後のルールでは、明確に決められることになるでしょう」

——もし、写真家がRAWデータで撮影しない場合は、どうするのですか？

「前後を含むJPEGデータを提出してもらいました」

——WPPの最終選考に残った作品が、20%以上も失格になるのを予想していましたか？

「いいえ。去年は失格はもっと少なかったですから。だからルールも見直さずにいました。まさか今年こんな事になるとは」

——これから写真を見る人の目が変わってしまうかもしれませんが、どう思いますか？

「かえっているんな議論を呼び、人々の目を開かせたことは良いことだと思います。長い間困惑していたみなさんは真剣に議論しました。これからはもっと写真の質が問われ、作品をサポートする機能も変わり、問題はもっとオープンに明瞭になっていくでしょう。それはとても良い事だと思います」

——私たちはDAYS国際フォトジャーナリズム大賞のコンテストを毎年行っていますが、どういう点に気を付けるべきかアドバイスはありますか？

「物事をできるだけ透明性を持ってクリアにしていくべきでしょう。失格となるようなデジタル加工に対してはできるだけ規約ではっきりさせ、明文化しておくことが重要です。写真家が勘違いしないように、主催者側がきちんと提案をすることだと思います」

◆ 動き始めた新たなルール作り

24日のパネルディスカッション「撮影後の写真のデジタル処理についての写真業界の基準」では、最初にWPPのマネージング・ディレクターのラース・ボーリングが、どのような不正が行われたのか、スクリーンを使って見せた。彼は、電線を消したのに、その影を消し忘れた写真の例とか、昼の羊小屋の写真を、窓の外を真っ暗にして夜の写真にしたものなどを参考例に挙げた（この議論の内容や25日のパネルディスカッション「ドキュメンタリー写真のルールについて」で語られた内容は、DAYS JAPAN誌の8月号に掲載する予定である）。

ボーリングのインタビューについて報告する。

——フォトジャーナリズムで、写真の加工はどこまでが許されると思いますか？

「カメラができることなら許容範囲だと思います。カラー写真をモノクロ写真にするのもOKですが、問題は撮影後にどこまでコンピュータで手を加えていいかということです」

——暗室で行われてきたことは認められるべきだと思いますが。印画紙を変えてコントラストを強調したり、暗室で指や

手を使って部分的に明るくしたり、暗くしたり、強調してきました。

「暗室で行われる加工については、これまでと特に変化はありません。しかし暗室ではなく、データファイルについては、色調補正ではなく、物を消したり追加したりすることにより、画像の内容を大きく変えてしまうのが問題となります。たとえば昼の写真を夜のように加工するのは許されません。小さな加工は、ある程度であれば許されます」

——トリミングはどうでしょう。かつてDAYS JAPAN誌には、9.11事件が米政府の陰謀である証拠写真として、ペンタゴンの激突跡の写真が寄せられました。そしてこの写真には航空機の残骸が見当たらないので、これは航空機が衝突したのではなく、ミサイルか何かが爆発したものに違いないという意見が書かれていました。この報告が掲載するにたる信憑性をもつかどうか、DAYS JAPAN編集部はアメリカ国内のネットを調査し、編集者が探し当てた写真には、航空機の残骸らしきものが写っていました。つまり自説に都合の悪いものが写っていた部分をトリミングして、残骸を除去した写真が送られたのです。私たちは、この報告の掲載を取りやめることにしました。

「トリミングは原則的にOKです。写真の一部をカットするトリミングは、この業界では許されています。もちろん情報の一部は消えてしまいます。しかし飛行機の残骸をトリミングで消して、キャプションで飛行機の残骸はなかったと書くと、誤情報を伝えたことになります。ジャーナリズムにとっては事実をそのまま伝えることが非常に重要です。情報を消してしまったら、人々はジャーナリズムに疑問を持つはずですよ」

——今後どのような対策を立てられますか？

「6カ月以内に、すべてのルールを再考し、明確にしたり改正するつもりです。またやらせについても言及し、私たちの倫理コードを決めます。そして写真家たちに新しい倫理基準と明確になったルールを伝え、理解してもらえるようにしたいと思っています。……ジャーナリスティックなルールが必要なのです」

問題はボーリングが最後に語った「ジャーナリスティックなルール」である。フォトジャーナリストを名乗る人のどれくらいが、ジャーナリズムに対する理解を持つかが、一番問題なのではないだろうか。

広河隆一（ひろかわ・りゅういち）

1943年、中国・天津生まれ。3歳のときに日本に引き揚げ。1967年早稲田大学卒業後イスラエルに渡航、1970年に帰国後は、中東問題と核問題を中心に取材。チェルノブイリ・パレスチナ関連の取材活動に対する受賞多数。2004年にはフォトジャーナリズム月刊誌「DAYS JAPAN」を創刊。写真展開催多数。日本写真家協会会員。

激変するストックフォトビジネス

諏訪博之（日本写真エージェンシー協会 事業委員会委員長）

デジタルカメラとインターネットの普及によりストックフォトは大きな変貌を遂げた。

それはテクノロジーの進歩にとどまることなく、ビジネスのあり方そのものまでを変えてしまった。プロカメラマンが撮影した写真をグラフィックデザイナーが使うという旧来の写真ビジネスから、誰でもが参加できるフラットでオープンなネット環境を利用する IT ビジネスへと変わりつつあるのが現在のストックフォトだ。そこでの写真の流通量は 10 年前に比べて、桁が 2 つ違うといわれるほど莫大なものになっている。

そんな新しいストックフォトの世界をご紹介します。

◆大きく変わるストックフォトのイメージ

ストックフォトと聞いてどんなイメージをお持ちだろうか？

「レンタルポジのこと？ 4×5 とかブローニーのポジフィルムをデザイナーや印刷会社に貸し出す商売。」こんな印象をお持ちの方は、今のストックフォトを知ることになると、大きく変わっていることに驚くはずだ。

「カメラだってほとんどデジタルだから、今どきポジフィルムを使うわけないよ。デジタルデータを販売しているのだらう。」これくらいは想像の範囲かもしれません。

しかし、現実にはポジフィルムがデジタルデータに変わったということだけではありません。ビジネスそのものが根本から大きく変わってきているのです。

◆写真ビジネスから IT ビジネスへ

写真がフィルムからデジタルデータに変わることで、ストックフォトビジネスの仕組みも大きく変わることになりました。レンタルポジの時代なら、写真は手渡しか宅配便を利用して流通されていました。ネット時代になりポジフィルムでの流通はほとんどなくなり、デジタルデータの流通に変わりました。現在、ストックフォトの購入は WEB サイトからのダウンロードが主流となってきています。

このことにより販売場所の制限がなくなりました。エージェンシーはリアルな店舗を構える必要がなくなり、ネット上でのサービスがビジネスの主流となってきました。

デザイナーがストックフォトエージェンシーに出向き、ライトボックスに候補写真を乗せて探す、という光景はもう見られなくなりました。

店舗でのレンタルポジの貸し出しから、ネットでのダウ

ンロード決済へ。レンタルポジビジネスから IT ビジネスへと変化を遂げています。

◆インターネットがもたらしたもの

扱われる商品がポジフィルムからデジタルデータに変わることによって、写真を探す方法が大きく変わりました。

以前ならフォトエージェンシーから送られてくる分厚いカタログをめくりながら目的に適した写真を探すか、デザイナーがフォトエージェンシーに足を運んでキャビネットから探すということが主流でした。あるいは、フォトエージェンシーのリサーチャーと呼ばれる担当者が候補のポジを選んでお届けする、という人力、アナログの仕事でした。

それが、昨今の主流はネットでの検索です。このことによって何が変わったのでしょうか。候補の写真が膨大に増えました。一昔前なら広告用の写真を選ぶのに 1 冊のカタログに掲載されている 1000 点ほどのなかから選べばよかったものが、候補は 1000 万点を超える写真のなかから選ぶというように変わりました。フォトエージェンシーは、いかに速く正確に目的の写真を探せるように、検索の仕組みを改良することに力を入れるようになりました。ネットの使い勝手を良くすることに注力する、まさに IT ビジネスです。

◆販売方法の多様化

ポジフィルムの時代は、ライツマネージド (RM) と呼ばれる販売方法しかありませんでした。「1 種 1 号 1 版」という文言を知っているかたも多いことでしょう。1 回の貸し出しにつき、その使用内容によって都度課金するという販売方法です。

そして、デジタル時代の到来とともに新しい販売方法が生まれました。それがロイヤリティフリー (RF) とよばれる販売方法です。一度購入すれば用途、サイズ問わず何度でも使用することができる販売方法です。「売り切り」などと初期の頃は呼ばれていました。購入する人には面倒が少なく、価格も抑えることができます。

現在、さらに勢力を拡大しつつある販売方法が、ロイヤリティフリーの「サブスクリプション (定額制)」と呼ばれる販売方法です。文字通り、写真を 1 点ずつ販売するのではなく、複数の写真を定められた期間のなかであれば制限があるものの使い放題といったものです。多くの写真を

利用する人にとっては魅力的な販売手法の一つになっています。これらの販売方法がネット時代の今、急速に普及してきています。

◆フラット化するストックフォトビジネス

デジタルカメラとネットの普及は、ストックフォトにフラット化をもたらしました。

以前はプロの写真家が撮影した写真を、プロのデザイナーが印刷物作成のために使用するという、限られたプロ同士の世界、一般の人は知らないクローズドなものでした。

それが、昨今はデジタルカメラで撮影したアマチュアカメラマンが、写真をストックフォトの販売サイトへアップすることができるようになりました。

そこでは子育て中のママカメラマンもプロ写真家も同じ土俵で戦うことになります。

特別な修練を積んでいなくても、特殊な知識や技能を持たなくても、誰でもがストックフォトのクリエイターになれる社会へと変わってきたのです。

◆マイクロストックの波

誰でもが写真を投稿して販売できる「投稿型ストックフォト販売サイト」では、販売額も「誰でも購入できる格安な金額」に抑えられており、1点当たり数十円から数千円といった金額（少額決済：マイクロペイメント）で販売されています。そのため、マイクロストックとも呼ばれています。従来の販売価格から比較したら価格差は相当なもので、プロの写真家にとっては価格破壊と言えるかもしれませんが、ネットを駆使して世界市場で販売することで大きく成長をしてきています。

◆広がるマーケット

このフラットなマーケットは参入の機会を誰にでも与えるオープンな環境となりました。

ここでの評価の基準は「販売高」という、きわめてデジタルで明解なものです。以前なら、どんな写真が売れるのか、どのように撮ればよいのかなどの情報、知識は特定のフォトエージェンシーかプロ写真家の“業界人”しか知りえないものでした。現在ではネット上には、売るためのノウハウはいくらでも見つけることができます。特定の写真家だけが活躍するマーケットから、誰でもが販売の機会を与えられるマーケットへと変わってゆきます。

◆求められるスキル

こうした環境の変化に対応して、写真家に求められるスキルも変わってきます。

「写真を売るのだから、撮影の腕以外はないだろう」一昔前ならこれで通用しました。

しかし、今のストックフォトグラファーに求められるものは撮影の腕だけではなく、ITリテラシーとマー

ケティング力が撮影技術と同等に求められることになりました。

一例をあげましょう。たとえばキャプションです。以前なら、ひとつかふたつのキャプションを付ければよかったのですが、現在はタグと呼ばれるキャプション、キーワード、さまざまなインフォメーションを写真家自身が提供しなくてはなりません。このタグの付け方によって検索結果に反映されて売上が左右する要因のひとつになっています。

ウェブサイトに掲載される1000万点を超える写真のなかから選ばれる時代、検索の上位に表示されなければ購入してもらう機会が少なくなることになります。写真をきれいに撮影することはもちろんのこと、この検索にヒットするように上手にタグ付けすることが必要になったのです。

◆変わるプレーヤー

最近ではテレビ番組や雑誌で写真提供は、アマナイメージズ、アフロ、などのクレジットをよく見ることがあります。以前ならAP通信、ロイターなどの海外通信社が直接に提供していたと記憶されているかもしれません。

何が変わったのでしょうか。前述の会社はフォトエージェンシーで、通信社からみれば代理店ということになります。

以前はテレビに映る写真は報道写真がほとんどでしたので、通信社が直接テレビ局に提供していました。最近ではバラエティー番組などで報道写真ではないイメージカットがたくさん使われるようになりました。そういった写真を提供するのがフォトエージェンシーです。このフォトエージェンシーは通信社の代理店を兼ねていますので、報道写真もイメージカットも提供できます。写真を発注するテレビ局からすれば、報道写真もイメージカットも同じ窓口にしたほうが便利だということも背景にあるでしょう。

さて、駆け足で変わりつつあるストックフォトを紹介してきました。

ストックフォトビジネスも一般の商品・サービスと同じくマーケットの要望に沿うカタチで変化しています。日本写真エージェンシー協会（JPAA）メンバーのフォトエージェンシーでは、こうしたマーケットの変化を知り、今後もより高品質の写真を集め、より付加価値を与えてマーケットへ様々なコンテンツを提供できるように努めています。今後は、マーケットのニーズに応える写真を提供できる人が、活躍できる時代になったと言えるでしょう。

諏訪博之(すわ・ひろゆき)

JPAA（一般社団法人 日本写真エージェンシー協会
理事 事業委員会委員長）

<http://www.jpaa.gr.jp/>

追悼：木之下 晃

—音楽写真家・木之下 晃の作品を振り返る—

河野和典 KOHNO Kazunori (フォトエディター)

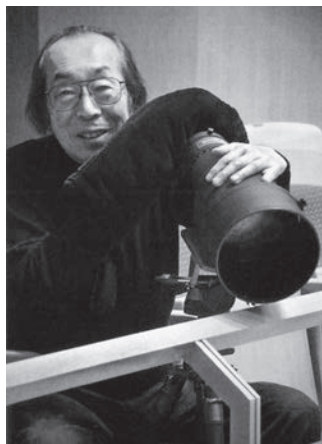
「木之下晃 お別れの会」

2015 (平成 27) 年 4 月 24 日午後 2 時から 4 時まで、東京・赤坂のサントリーホール ブルーローズ (小ホール) において、去る 1 月 12 日、虚血性心不全で亡くなった木之下晃さんの「木之下晃 お別れの会」が催された。会場は写真界、音楽界で付き合いのあった人たちが集いっぱいとなった。若い女性司会者のさっぱりとしたすがすがしい声が響く。なんとそれは木之下晃さんの次女でフリーアナウンサーの貴子さんであった。この日のためにまとめられた木之下さん思い出の映像が映し出される。出会いと発見を大切にされた木之下さんならではの貴重なシーンがつつぎとつづく。弔辞を日本写真家協会会長の田沼武能さん、そして木之下さんの母校・日本福祉大学理事長の丸山悟さんが述べられた。献杯の挨拶は、写真集はじめ多くの木之下作品に関わってこられた元小学館編集者の大原哲夫さんである。そのあとは閉会までの時間、多くの参列者の思い出話がロビーにこだました。

最後に、来場者へ記念品として追悼冊子『音楽写真家木之下晃 たいせつな出会い』が手渡された。

「テレビ・スター」に始まる私の思い出

1970 年、日本カメラ社へ入社した私にとって、木之下晃さんの思い出と言えば、1971 年『日本カメラ』5 月号口絵に掲載された 5 ページのカラー作品「テレビ・スター」に始まる。作者の言葉によれば「ここに提示した 5 点のフィルムは、『テレビ・スター』の顔を、単なる顔だけのものとして写しとどめるのではなく、スターという作られた虚像が存在していることを見せようと、試みたものなのである。」とい



ありし日の木之下晃さん (『音楽写真家木之下晃 たいせつな出会い』より) ©藤藤亮一

う。この作品は、その意味でドキュメンタリーなのである。この作品は添景としてのテレビではなくて、テレビそのものが持つ虚像に迫る新鮮な切り口が印象に残る作品であった。そしてこの作品を含む写真集『音楽家—音と人との対話』(自費出版)が 1971 年日本写真協会賞新人賞に輝くのである。別項「木之下晃の足跡」にあるように、初期の木之下作品は、やはり自費出版の写真集『FOLK SONG '69』をはじめジャズやロックシーンをも盛んに撮影する間口の広い写真家のものであった。クラシック音楽に特化していくのは 70 年代後半からである。特に大きな注目を浴びることとなったのが 1981 年出版の『SEIJI OZAWA—小澤征爾の世界』と『カラヤン HERBERT VON KARAJAN』の 2 冊の写真集からであろう。

1976 年『日本カメラ』の編集長が梶原高男さんになってから木之下さんは、ちよくちよく編集部へ顔を見せられるようになった。木之下さんのクラシック音楽への並々なぬ情熱が作品に乗り移ったかのように、グッと木之下さんの視界が開かれたように思われた。木之下さんの代表作の一点として有名な、ピアノの黒い鍵盤が長いまつげとなったアルフレッド・ブレンデルをはじめ、小澤征爾やカラヤンなどの傑作がつつぎと登場することとなる。音楽に目のない私にとっては、その持ち込まれる作品を傍らから拝見するのがとても楽しみであった。

音楽を総体として記録

木之下晃さんは第一級のスポーツ選手と同様に、そ



「木之下晃 お別れの会」会場風景

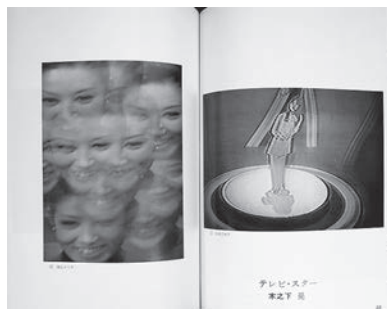
(撮影/松本徳彦)

の並外れた集中力から発するショットによって音楽の一瞬を写し止める。誰とはなしに音楽家からは「木之下晃の写真からは音が聴こえる」と言われるようになった。そしてさらなる瞬間を求めて、新たな音楽ホールには撮影用の窓を設けてもらい、東京文化会館などの覗き窓は撮影用に改良してもらうよう働きかけた。これによって文化会館をはじめサントリーホール、池袋芸術劇場、オーチャードホール、みなとみらいホール、ミューザ川崎シンフォニーホールなどは堂々と撮影できるようになったのだ。

木之下作品の最大の功績は、作曲家、指揮者、管楽器や弦楽器あるいは声楽を含むソリストのみならず、世界中の劇場やホールをも撮影され、音楽を総体として記録されたことにある。それもそれぞれのシーンで決定的瞬間と言えるような優れた作品を数多く遺されたことである。

吉田秀和さんの思い出

1990年水戸芸術館がオープンし、写真展も何回か企画開催され、あるとき若い女性写真家数名の合同展のオープニングに向いたところ、な



木之下晃「テレビ・スター」(『日本カメラ』1971年5月号より)



追悼冊子『音楽写真家 木之下晃 たいせつな出会い』

んと音楽評論家の吉田秀和さんと奥さんのクラフト・バルバラさんがパーティ会場のソファに並んで座られているではないか。吉田さんは水戸芸術館の初代館長に就任されていたのである。大学1年のとき、私は一般教養で音楽を選んだところ吉田秀和さんが講師だったので、おそろおそろ挨拶をする、気さくに音楽と写真の話に話に応じていただいた。そして最後に、「木之下晃さんの写真はとてもいいですね」と言われたのである。後日、それを木之下さんへ伝えると、一気に顔がほころび(と言っても電話であったが)「実はコンサートの後、鎌倉まで帰る車に、『木之下さん一緒に乗っていかない?』と声をかけられて、横浜まで一緒にさせていただいたことが何度もあったんだけど、それはそれは緊張しながらも楽しかったですよ」と話されたことを思い出す。吉田さんの評論活動にたいしては、分野を超えて敬愛される方が大勢いるが、木之下さんは音楽を超えて人間的に吉田さんを尊敬されているようであった。今頃、あちらでまたお二人は、音楽談義をされているのではないだろうか。



「木之下晃の足跡」の写真集リストを見ても分かるように、ヘルベルト・フォン・カラヤンをはじめ、レナード・バーンスタイン、小澤征爾、朝比奈隆、カルロス・クライバー、マリア・カラスなど、傑作はきりが無いほどある。その中から最後に私の好みを挙げさせていたかくと、写真集『木之下晃 武満徹を撮る』とCD『武満徹 青春を語る』(2005年、小学館)のカップリングになる。なぜか独学で世界的な作曲家となった武満徹さんと音楽写真のバイオニアとも言える木之下晃さんは妙に相性が良いのである。ここには木之下晃さんと武満徹さんが奏する感性のハーモニーとも言えるような二人のコラボレーションの素晴らしさがある。

「木之下晃の足跡」

1936年長野県生まれ。長野県諏訪清陵高校、日本福祉大学で学ぶ。中日新聞社、博報堂を経てフリーとなり、1960年代から一貫して「音楽を撮る」をテーマに撮影、フィルムでの撮影・現像に最後までこだわり続け、生涯に撮影したフィルムは3万本に及ぶ。その写真については「音楽が聴こえる」と、ヘルベルト・フォン・カラヤン、レナード・バーンスタインなど音楽関係者から高い評価を得ていた。2015年1月12日、虚血性心不全のため死去。享年78

写真集

69年『FOLK SONG '69』(自費出版)、70年『音楽家—音と人との対話』(自費出版)、81年『SEIJI OZAWA—小澤征爾の世界』(講談社)、同年『カラヤン HERBERT VON KARAJAN』(TBSブリタニカ)、84~85年『世界の音楽家・全3巻』(小学館)、87年『アメリカの音楽地図』(新潮社)、88年『小澤征爾とその仲間たち』(音楽之友社)、89年『ワーグナーへの旅』(新潮社)、91年『ブラハムの春』(音楽之友社)、91年『モーツァルトへの旅』(新潮社)、91年『小澤征爾とその仲間たち Part 2』(音楽之友社)、91年『MY MOZART』(小学館)、92年『巨匠カラヤン』(朝日新聞社)、92年『モスクワの夏』(音楽之友社)、93年『Bravol!』(Fenice 2000 s.r.l. Milano, Italy)、94年『これだけは見ておきたいオペラ』(新潮社)、94年『朝比奈隆』(増進会出版社)、95年『小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラ』(音楽之友社)、96年『off stage!』(東京書籍)、96年『渡邊暁雄』(音楽之友社)、96年『朝比奈隆』(音楽之友社)、96年『ベートーヴェンへの旅』(新潮社)、98年『音楽家』(JCI フォトサロン)、02年『朝比奈隆 円熟の80代』(音楽之友社)、02年『朝比奈隆—長生きこそ最高の芸術』(新潮社)、04年『カルロス・クライバー』(アルファベータ)、05年『武満徹を撮る』(小学館)、06年『マエストロ—世界の音楽家』(小学館)、06年『ヴェルディへの旅』(実業之日本社)、06年『日本の演奏家』(JCI フォトサロン)、07年『MARTHA ARGERICH』(ショパン)、08年『オペラ極楽ツアー』(朝日新聞出版)、08年『José Carreras』(ビザビジョン)、09年『青春の音楽—PMF Sapporo』(北海道新聞社)、08年『MAESTROS—音楽の決定的瞬間』(ミューザ川崎シンフォニーホール)、08年『石を聞く肖像』(飛鳥新社)、11年『音楽の殿堂—響きあう感動50年 東京文化会館ものがたり』(東京新聞)、12年『最後のマリア・カラス』(響文社)、13年『ヤンソンとムーミンのアトリエ』(講談社)、14年『栄光のレナード・バーンスタイン』(響文社)

る』(小学館)、06年『マエストロ—世界の音楽家』(小学館)、06年『ヴェルディへの旅』(実業之日本社)、06年『日本の演奏家』(JCI フォトサロン)、07年『MARTHA ARGERICH』(ショパン)、08年『オペラ極楽ツアー』(朝日新聞出版)、08年『José Carreras』(ビザビジョン)、09年『青春の音楽—PMF Sapporo』(北海道新聞社)、08年『MAESTROS—音楽の決定的瞬間』(ミューザ川崎シンフォニーホール)、08年『石を聞く肖像』(飛鳥新社)、11年『音楽の殿堂—響きあう感動50年 東京文化会館ものがたり』(東京新聞)、12年『最後のマリア・カラス』(響文社)、13年『ヤンソンとムーミンのアトリエ』(講談社)、14年『栄光のレナード・バーンスタイン』(響文社)

受賞

71年日本写真協会賞新人賞(写真集『音楽家—音と人との対話』)、73年第25回全国カレンダー展・印刷時報社賞(MUSIC FOR LIVING PROCESS 全音楽譜出版社)、75年タイム・ライフ世界年鑑新人部門ノミネート(一連の音楽映像写真)、78年鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)ノミネート(個展「或る作曲家の日影—小倉朝の世界」)、82年サントリー音楽賞ノミネート、85年第36回芸術選奨文部大臣賞、05年日本写真協会賞作家賞(一連のクラシック音楽の写真に対して)、06年紺綬褒章、08年第18回新日録音楽賞・特別賞(クラシック音楽界を写真で側面から支えた功績)、08年第60回全国カレンダー展・日本印刷新聞社賞(ゼンオン・オペラハウス・カレンダー)、09年第61回全国カレンダー展・全国中小企業団体中央会会長賞(ゼンオン・オペラハウス・カレンダー)

*『木之下晃の足跡』は追悼冊子『音楽写真家 木之下晃 たいせつな出会い』より引用させていただきます。

特集「日本写真保存センター」写真展

人類史上最悪の悲劇となった広島・長崎の原爆を被災写真で綴る

「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」

平成27年8月4日(火)～30日(日) JCII フォトサロンで開催

松本徳彦(副会長)

原子爆弾による被爆の惨劇を見る

ヒロシマ・ナガサキと問うと、ほとんどの人が「原爆のことね」と返してくる。それほど原爆については多くの人たちが知っている。しかし、その実像はというとさほど詳しくは知られていない。原爆投下から70年経った今日では、被爆体験者も少なくなり、当時の実相を聞くことも語り継がれる機会も少なくなっている。

公益社団法人 日本写真家協会「日本写真保存センター」は、ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾による被爆直後を捉えた写真を通して、原子爆弾の恐ろしさを知ってもらう写真展を企画した。本展では被爆直後から数カ月以内に撮影された写真原板を、広島や長崎の資料館と新聞社、撮影者の遺族などから集め、新たに60点の写真をプリントして、被爆直後の凄惨な状況をありのまま伝えることにした。

ヒロシマ・ナガサキの原爆に関する書籍や写真集も数多く発行されており、ご覧になられた写真も多いと思うが、はじめて見られる方も相当おられると思う凄

惨な写真は見たくないという方もおられようが、この悲劇を再び繰り返さないようにするには、実相を知ることが大事ではあるまいか。残されている写真は限られている。「実態はこんな軽々しいものではないよ」とお叱りを受けるかもしれないが、現にあるものだけでも見ておいて欲しいというのが願いである。

2013年9月、長崎原爆の被災状況を撮影した山端庸介のご息山端祥吾から、父が写した写真原板を「写真保存センター」に寄託したいと申し出があった。被爆翌日の1945年8月10日に撮影された写真原板68点と関係資料が持参された。これは人類史上初の原子爆弾による被爆直後を撮られた広島の松重美人のフィルム(中国新聞社蔵)に次ぐ、第二の惨劇を記録した貴重な写真原板であるところから収集し、保存することにした。この二度とあってはならない原爆記録は保存するだけでなく、プリントにして多くの人たちに見てもらうことが大切である。折しも「被爆70年」といった機会を捉え、写真原板から高精細なプリントを作り後世に



岸田貢宣 8月7日朝、破壊された本通りから西を見る (広島平和記念資料館提供)



深田敏夫 8月6日11時頃、巨大な原子雲
(広島平和記念資料館提供)

伝えることにした。

両氏の写真には被爆直後のものがき苦しむ人々の凄惨な状況が克明に記録されている。目を覆いたくなるような悲しい場面もあるが、「これが事実だったのだ」と真摯に受け止め、ご覧いただきたい。

原子雲を撮る

広島では炸裂直後の原子雲を撮った写真が何点も残っているが、処理が悪かったのか余り際立った写真が無かった。そんな中、中学校から勤労奉仕で出掛けていた陸軍兵器補給廠で被爆した深田敏夫のベビーパールで撮った連続した4枚の原子雲は、撮影地点が爆心地から2.7kmと近くであったため、そのもくもくと上がる巨大な原子雲の迫力はピントの良さもあって他を圧倒していた。広島平和記念資料館に寄贈されている。

松重、山端の原板

展示した松重美人の写真は、フィルムが傷ついている現状をそのままプリントした。これまで公表されてきた写真では周囲がトリミングされ、綺麗にまとめられていた。残されていたフィルムからプリントすると、画面両端が何故か暗くカブったように見える。保存されているコマ切りにされたネガフィルムを見ると、両

端の画像濃度が薄い。経年による画像濃度の低下でまともにはプリントしづらい。松重によれば「現像は新聞社の暗室が破壊されていたので、3日ほどのちに夜闇を利用して河原で皿現像をした。水洗も川の流水でしたので傷ついているところもある」と言っていた。わずか5枚しか写していないが、被爆写真第一号の貴重なフィルムである。

山端庸介のネガも現像中に、膜面がくっついたり気泡が生じたりしての抜けと、ネガの修復による黒い斑点などのシミや汚点が何か所かで見られる。こうした損傷もすべて現状のままプリントした。保存センターでは原板の現状を知る上での貴



松重美人 8月6日11時頃、御幸橋で救護される女子学生たち (中国新聞社提供)



尾糠政美 8月7日、熱線を背中に受けた婦人 (広島平和記念資料館提供)

重要な記録として残すことにした。

被爆の実相

熱線を浴びた負傷者を陸軍船舶司令部の写真班員だった尾糠政美、川原四儀が記録した。数日後には死亡す

るであろう被爆患者も数多く撮影していたが、敗戦時に軍の命令で原板のほとんどが焼却処分された。僅かに残る原板や複写ネガからプリントするしかなかった。

9月末に組織された日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会に、日本映画社のスタッフとして同行した菊池俊吉が広島で医療現場を精力的に撮影している。林重男は広島、長崎で爆心地を特定するための物理的検証を証明するために、墓石や欄間、建造物の傾きなどと、被爆後の荒涼とした焦土をパノラマ撮影している。

東方社の写真家であった菊池と林の原板は、敗戦後進駐してきた米軍MPに接收されそうになったが、木村伊兵衛の機転で「プリントは渡せるが、ネガは写真家の命である」と断り接收を免れた。菊池の原板860枚は家族によって保存され、林のネガは広島、長崎の資料館に寄贈された。



菊池俊吉 10月4日、日赤病院で治療を受ける婦人 (田子はるみ蔵)



菊池俊吉 10月11日、荷車で運び込まれた少年 (田子はるみ蔵)

記憶遺産としての価値

東京から博多の西部軍司令部に赴任したばかりの山端に9日朝、長崎に投下された原子爆弾の被害状況を撮影するよう命令される。夜を徹して長崎に向かうが、手前の道ノ尾でストップ。徒歩で市内に入る。道すがら被爆死した人たち、負傷した人々を撮影する。あの過酷な状況を冷静な眼差しで淡々と捉えている。その卓越した手腕に驚く。

山端は記録写真『原爆の長崎』（1952年 第一出版社）の中で、「この写真が現像されて、末期的現象を表していた状況を軍部の手によって発表され、日本の民心の最後の志気鼓舞や、続いて行われるであろう原爆攻撃に対する最も消極的避難方法に、誤った利用をされなかった事は不幸中の幸いであったと思う」と記述し、「写真記録は永久に何の歪曲もなく当時を物語っている」と結んでいる。

保存センターには68点のネガが寄託されているが、多分撮られたであろうコマ数は110数枚ともいわれ、被爆直後を撮った写真としては最大量である。いずれにせよ松重、山端の写真原板は歴史的事実の忠実な物証であり、世界記憶遺産としての価値がある。

写真保存センターのこと

「日本写真保存センター」は文化庁の委嘱を受けて、わが国の歴史的・文化的に大切な出来事や事象を記録



林 重男 10月上旬、調査を始める学術調査団
(広島平和記念資料館提供)



川原四儀 8月11日、中国新聞社屋から焦土と化した市内を望む (広島平和記念資料館提供)



山端庸介 8月10日朝、爆心地から1.6Km地点で
(山端祥吾蔵)



山端庸介 午後1時頃、焼死者のそばでたたずむ女子挺身隊員
(山端祥吾蔵)



山端庸介 午前10時頃、爆心地から1.5Km、被爆状況をスケッチする東潤(記者) (山端祥吾蔵)



山端庸介 午後2時頃、爆心地から700m、学徒動員学生の焼死体 (山端祥吾蔵)

した、写真フィルムやガラス乾板などの写真原板を収集・調査し、低温、低湿の収蔵庫で保存している。原板は現状のまま残すと同時にデジタル化して、容易に検索、閲覧ができるアーカイブの構築を図っている。

「写真」は事物を忠実に記録するメディアとして役立つことは、誰も疑う余地がない。しかし、その元とな

る写真原板が年を経るごとに劣化し、使えなくなっている。さらに世代が変わるごとに原板そのものの散逸が増えている。「写真保存センター」では写真原板を収集し、クリーニング、スキャニング、包材の交換、データベース作りなど地道な活動が続けている。



山端庸介 午後1時頃、被爆した市電と死亡した乗客たち (山端祥吾蔵)



山端庸介 午後3時頃、わが子に乳を与える母親 (山端祥吾蔵)



山端庸介 午前8時頃、防空壕で助かった少女（山端祥吾蔵）



山端庸介 午前7時頃、傷ついた弟を背負う兄（山端祥吾蔵）



林 重男 10月中旬、市内至るところで茶毘に付す（長崎原爆資料館提供）

実験の場となったヒロシマ・ナガサキ

1945年8月6日午前8時15分、太平洋のテニアン島から飛来した米軍のB 29爆撃機エノラ・ゲイ号が、人類史上最初の原子爆弾（ウラン型）を広島市上空で投下した。炸裂した爆弾の破壊力は強大で、たちまち市街の大半が衝撃波で破壊され、強烈な熱線で市民の多くが焼き尽くされ、13万人もの死傷者が生じ、大量の殺戮が一発の爆弾で行われた。さらに米軍機は、3日後の9日午前11時02分、長崎市に2度目の原子爆弾（プルトニウム型）を投下した。建造物の破壊と7万人に及ぶ市民多数が死傷したことを、日本人として記憶にとどめておきたい。



山端庸介 午前10時頃、神社の鳥居だけが残った (山端祥吾蔵)

本展は、共催：(一財)日本カメラ財団 後援：中国新聞社、(公財)広島平和文化センター平和記念資料館、協力：長崎原爆資料館、朝日新聞社、(一社)日本写真著作権協会、山端祥吾、田子はるみ、岸田哲平、塩浦雄悟各氏の協力を頂いて開催されるものである。

展示写真は、広島平和記念資料館、中国新聞社、長崎原爆資料館、朝日新聞社、田子はるみと写真保存センターに寄託されている山端庸介の原板からプリントした。(文中敬称略)

写真展：「知っていますかー ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」

会期：平成27年8月4日(火)～30日(日)

会場：JCII フォトサロン
午前10時～午後5時
月曜休館 入場無料

主催：公益社団法人日本写真家協会「日本写真保存センター」

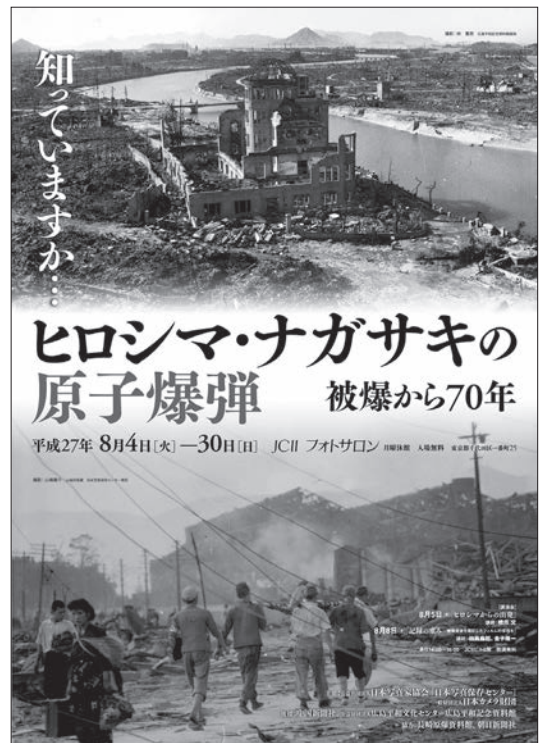
共催：一般財団法人日本カメラ財団

後援：中国新聞社、公益財団法人広島平和文化センター平和記念資料館

協力：長崎原爆資料館、朝日新聞社、一般社団法人日本写真著作権協会

協賛：キヤノンマーケティングジャパン(株)

講演会：8月5日(水)14～16時
「ヒロシマからの出発」 講師：橋爪文
8月8日(土)14～16時
「記録の重み-被爆直後を撮影したフィルム」の保存を」
講師：田良島 哲、金子隆一 聴講無料



クリエイター指向の新しい著作権制度とは

安藤 和宏 (東洋大学法学部准教授)

日本の著作権法には写真(著作物)を売ったり、使用したりしたら、写真家(著作者)に相当のお金を払いなさいと、何処にも書いてないことにお気づきですか。写真家が請求書に書く撮影料とは、労働に対する報酬なのか、創作物に対する使用料なのか、疑問に思ったことありませんか。まったく違う報酬の考え方ですが、両方貰っても、相当な報酬なのかもしれません。著作物創作のサイクルを円滑に維持するには、相当の報酬の支払いを著作権法で補償すること、その制度の充実が不可欠です。3月9日の研修会で、契約制度に著作権法が介入する例をお話いただきました。諸外国の制度を知ることは有効な手段になると思います。(著作権委員会)

1. はじめに

日本の著作権法には、契約を規制する規定がほとんど設けられていない。あくまでも契約当事者の交渉力には差がないという前提に立っている。しかしながら、そのようなケースがほとんど存在しないことは、周知の事実である。そして、写真家をはじめとして、著作者は交渉力が弱いと、経済的に不利な条件で契約を締結することが多いのが実情である。

一方、諸外国の著作権法には、さまざまな契約法的な規定が設けられており、契約自由の原則に著作権法が介入することによって、著作者の保護が図られている。つまり、比較法的に見ると、日本の著作権法は著作者保護の規定を欠いた、クリエイターに驚くほど冷たい法制度なのである。

本稿ではアメリカ、ドイツ、フランスの著作権制度における契約法規定を紹介し、あるべき著作権制度について考察してみたい。

2. アメリカの終了権制度

まず、本稿で紹介したいのはアメリカの終了権制度である。これは、権利付与(著作権の移転及びライセンス)が行われた日の35年後に始まる5年間に限り、終了権者(著作者またはその遺族)が権利を付与した相手方に契約を終了するという通知をすることによって、権利付与を終了させることができるという制度である。具体的な例を挙げて説明しよう。

2015年5月1日に写真家Aが自分の作品Xの著作権を広告主Bに10万円で譲渡したとしよう。日本の著作権法では、写真家Aは作品Xの著作権を広告主Bから取り戻すことができない。ところが、アメリカの著作権法では、2015年5月1日から35年を経過すると、つまり、

2050年5月1日になると、写真家Aは広告主Bから作品Xの著作権を取り戻すことができるのである。この権利を終了権という。契約を強制的に終了させることができる権利ということになりやすいだろう。

契約を終了できるのは、著作権譲渡だけでなく、ライセンスも含まれる。たとえば、写真家Aが広告主Bに対して、作品Xの使用権を50年間与えるというライセンス契約を締結したとしよう。この場合でも、契約締結日から35年を経過すれば、写真家Aはこのライセンス契約を強制的に終了させることができるのである。

アメリカ著作権法における終了権制度の立法趣旨は、著作者やその家族に著作物の価値に見合う正当な報酬を受け取る2回目の機会を与えるというものである。前述したように、著作者は交渉力が弱いと、経済的に不利な条件で契約を締結することが多い。また、作品の価値は市場が決定するため、作品が市場に出る前にその価値を正確に判断することは不可能である。連邦議会は、このような著作物の実際の価値よりも低い報酬しか受け取ることができない著作者を保護すべきであると考え、著作者に終了権という強力な権利を与えたのである。

著作権契約を終了できる権利者を終了権者という。著作者が生きている場合は、著作者が終了権者となる。著作者が死亡した場合、寡婦または寡夫が終了権を取得する。ただし、著作者に子がいる場合、寡婦または寡夫が終了権の1/2を取得し、残りを子で等分に分ける。さらに著作者の子が亡くなっているが、その子の子、つまり著作者の孫が生きている場合、その孫にも終了権は帰属する。ただし、生存している子の子には終了権は帰属しない。終了権は複数の者に帰属している場合、終了権の過半数を持つ者が権利付与を終了させることができる。

職務著作物は終了権の対象外となる。これは、職務著作物の著作者は映画会社やレコード会社、出版社のような企業であり、個人の著作者のように不利な取引上の地位に置かれるものではないため、自然人クリエイターと



研究会のようす

(撮影：和田靖夫)

同様の保護を与える必要はないという理由による。また、職務著作物の実際の創作者である従業員や請負人は、終了権を行使できない。彼らは制定法上の著作者ではないからである。

終了権制度の創設において、最も大きな課題となったのは、終了前の権利付与に基づいて作成された二次的著作物の扱いであった。連邦議会は、終了権の例外規定として、これらの二次的著作物の権利者は、終了後も権利付与の条件に基づいて、引き続き二次的著作物を利用することができるものとした。ただし、終了後は、終了権の対象となった原著作物に基づき、新たな二次的著作物を作成することはできない。この規定により、映画会社は、ライセンス終了後も、ライセンス契約に基づき製作した映画を継続利用することができる。

3. ドイツの相当報酬請求権制度

ドイツの著作権制度にもクリエイターを保護するさまざまな規定があるが、本稿では相当報酬請求権制度を紹介しよう。これは、著作者は使用権の許与及び著作物の使用許諾について、合意された報酬が相当なものでない場合、契約の相手方に対して、報酬が相当になるように契約の変更を求めることができるという制度である。したがって、著作者と利用者間で、著作物の使用許諾の対価を1,000ユーロにすると合意しても、それが客観的に相当でない場合、著作者は利用者に対して、相当な報酬を与えるように契約の変更を請求できる。

この権利は著作者が保有するが、アメリカの終了権と同様、他人に譲渡することはできない。適用主体はすべての著作者であり、著作物の種類を問わない。雇用関係にある者の創作にも原則として適用される。なお、「相当な報酬」とは、契約締結時において、あらゆる事情を考慮しつつ、報酬が許与された利用可能性の方法及び範囲、特に使用期間及び使用時期に照らして、商取引上、通常かつ誠実に支払われるべきものに相応しい場合をいう。

この法制度の目的は、アメリカ法の終了権制度と同じく、著作者に作品の価値に見合った正当な報酬を得る2

度目の機会を与えるというものである。ただし、アメリカ法の終了権制度と違い、ドイツ法の法定報酬請求権制度は契約の存続を前提としている。前述したとおり、作品の価値は市場が決めるものであり、契約締結の時点では、その価値が分からないため、報酬に作品の価値が正確に反映されていない。この問題は権利の譲受人やライセンスだけに責任を負わせるべき性質のものではない。ドイツ法はこの点を重視し、契約を終了させずに、契約内容を変更するというアプローチを採用したのである。

4. フランスの強制ロイヤリティー制度

ドイツ法と同様、フランス著作権法にも不当な契約から著作者を守る規定が多く存在するが、特に注目すべきは強制ロイヤリティー制度である。フランス法では、著作権移転の対価はロイヤリティーによる報酬を原則とする。これは権利の全部譲渡だけではなく、一部譲渡の場合にも適用される。ロイヤリティーのベースとなるのは販売または利用から生じる収益であるが、通常、著作物の複製物の場合は小売価格がベースとなる。

フランス法の強制ロイヤリティー制度は、一括払いの報酬で権利を移転したために、作品の商業的成功にもかかわらず、まったく追加報酬を受けられない貧窮の著作者を救済するものとして、大いに評価することができる。アメリカ法の終了権制度の立法過程で著作権局が当初、救済対象として想定していたのは、まさにこのような作家であった。フランス法の強制ロイヤリティー制度の立法趣旨は、アメリカ法の終了権制度やドイツの法定報酬請求権制度と同一であり、著作者は作品の価値に見合った正当な報酬を受け取るべきという考えに基づいている。

5. 結びに代えて

このように先進国の著作権制度に目を向けると、交渉力の弱い著作者を権利の譲受人やライセンスによる不当な搾取から守る法律制度を持つドイツ、フランス、アメリカなどに比べ、日本は不利な取引条件を甘受せざるを得ない著作者の保護に無関心だと言われても仕方ないだろう。まさにクリエイター指向の著作権制度を構築すべき時期に来ていると思われる。クリエイターによる議論の深化に期待したい。

安藤和宏(あんどう・かずひろ)

1963年生まれ。東京学芸大学卒業、フランクリンピアース・ローセンター(LL.M.)、ワシントン大学ロースクール(LL.M.)修了、早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程博士研究指導終了。高校教諭、日音、キティミュージック、セブティマ・レイ、北海道大学大学院法学研究科特任教授を経て、現在、東洋大学法学部准教授。専門は知的財産法。博士(法学)。

「日本写真保存センター」調査活動報告(18)

多様な表現の写真 ー収集・保存した写真原板からー

松本 徳彦 (副会長)

「写真保存センター」の調査研究を始めて8年になる。この間に収集・保存した写真原板数は91,211本に及ぶ。ただこの数字は35ミリのネガフォルダーに換算しての数字なので、実際のコマ数はこの数倍以上になる。

収集した写真原板は劣化の有無を調べ、原板のデータベース資料を記録したのち、クリーニングして、中性紙の包材に交換して保存することになる。実は大変な作業で、根気と費用のかかる仕事である。「写真は社会の動向を記録し、後世に役立たせる働きをするもの」との命題を合い言葉にして活動している。

●田中徳太郎 (1909～1989)

象徴的な日本の美意識「白さぎ」

東京から北にわずか30kmのさいたま市見沼区に、かつては緑豊かな水田が広がっていた。いまは大東京のベッドタウンと化し都市開発が進んでいる。

この地に東南アジアから飛来する野田のサギ山があった。1954年ころ元国鉄職員だった田中徳太郎はこの白サギの美しさに魅かれて、サギの生態記録を始めるが大きく撮れない。やむなく近所の町工場に頼んで1000mmの望遠レンズを製作してもらい撮り続けるがまだ十分とはいえず、サギが巣作りをしている農家の庭先に高さ10mの櫓を立て、頂上に葎で囲った小部屋を造り辛抱強く待ち続け、会心の1枚を撮影し小西六ギャラリーで個展をした。ライブ誌、ニューヨークタイムスで紹介され、一躍海外デビューし、MOMAやメトロポリタン美術館のコレクションにとトントン拍子で評価される。ペニスビエンナーレやフランスモンペリエ国際展でアンドレ・マルロー文化大臣賞を受けるなど、シラサギの緻密な生態記録と気品のある美しい表現が高く評価される。

撮影櫓もさらに高く20mにまでなり、性能のよい1500mmのレンズと相まって、サギの魅力を存分に引き出せるようになった。写真集も立て続けに発行され、そのファンタジーあふれる写真は世界の頂点を極めた。679本収蔵。



●佐藤明 (1930～2002)

斬新なイメージの「冷たいサンセット」



1930年東京に生まれる。麻布小学校から府立一中(日比谷高校)と秀才コースを経て、横浜国立大へ。この頃から写真熱が高まり、図書館で海外の雑誌を読みふけり服飾モード誌に関心を深める。55年創刊間もなくの『サンケイカメラ』誌に心象的な作品を発表。奈良原一高、東松照明、細江英公らとVIVOを結成。婦人誌でファッションやスターの写真を撮る。60年『カメラ毎日』に「冷たいサンセット」を発表し、斬新な表現が話題を呼ぶ。その後「サイクロピアン」を連載。吉村伸哉は「佐藤のポートレートは、鋭角をもった氷の結晶のように冷たくみえて、内側ではなにかが熱く燃えさかっている」(カメラ時代66年)と繊細で瀟洒なイメージと評している。ロマンティックな耽美な美意識や精神性はどこから生まれたものだろう。学生時代にうけたアメリカナイズされた象徴的でモダンなイメージによる影響が大きい。さまざまな試行を繰り返し到達したのが、広角レンズによる誇張されたイメージ、多重露光によるイメージの合成、映像的手法を生んだ。きわめて革新的な手法がそののちに誕生する横須賀功光や篠山紀信、大倉舜二らに影響を与え、華麗なテクニシャンとも言われていた。7,107本収蔵。

●恒成一訓 (1920～1999)

「銀閣寺東求堂の四畳半の茶室」

福岡県に生まれ、東京工業大学建築科を卒業。特別研究生として都市計画を専攻する。著書に「日本の庭園」、

「小堀遠州」、「書院」、「角屋」、「数寄屋造り」がある。と書くとき写真家というよりも和風建築の大家であることが分かる。

では写真が趣味かと思われるが、とんでもない。大型カメラを巧みに使いこなす完璧な建築写真家である。



建築史家の森蓋氏によれば「数寄屋造りは室町時代にまで遡る」といわれ、「茶室建築については奈良の称名寺に起因する」といわれるほど、古い歴史がある。恒成一訓は大学で建築学を専攻し、専門教育を学んだ建築家である。その恒成が和風建築の大家として知られるようになったのは、専門知識を身に付け建築の要所を的確に捉えているところに、専門家の評価が定まり、多くの専門書を手がけることになった。和風建築は現代建築と違って、木材の素材や自然の形・肌合いを生かすところに特色があり、その自然との調和や端正な空間美が如何なく表現されているところが、研究者にとっては作品として以上に、資料としての価値を認める。撮影記録も整っていて、写真保存センターにとっても貴重な写真原板である。2,564本収蔵。

●石橋寿子 (1949 ~ 1985)

「北と東の人間録」から「函館の朝市」

ひたむきな目で故郷北海道から東京の下町の人々と接しながら人生を見つめ、人間とは何かを問い続け、夭折した女流写真家。

北海道から本土へは函館、青森間の鉄道連絡船で行き来した。連絡船では畳み敷きの船室に、老若男女が大きな荷物をもったおばさんから子連れの夫婦、出稼ぎのおじさん達が雑魚寝している。さまざまなたちで船室



はあふれている。港に着くとどちらにも大きな市場がある。函館の港は何と言っても鮭や毛蟹、イカなどの新鮮な魚類を売るおばさん達が甲高い声で客の獲得競争だ。一方、青森側では青果物やリンゴの売り場が賑わっている。赤く色づいたリンゴを割って食べさせ土産物を売る。そんな人たちの輪に混じって会話をしながら写真を撮る。実にエネルギーに対象に迫り撮りまくる。男でも出来そうもないことをやってのける気迫の人だ。人の心をとらえる天性の才能があるのだろう。彼女によれば出会いの瞬間と自分の直感を大切に撮っているという。

函館の朝市もその典型であろう。東京に来てからも浅草、上野、佃島などの人情味のある下町風情に興味を抱き、人間の生き方を追い求めていた。リアリティーのある作品群が夫の神山洋一と師匠にあたる英伸三、橋本紘二らによって写真集『北と東の人間録』(1985年)として刊行されている。520本収蔵。

●秋山忠右 (1941 ~ 2013)

「大東京空撮」より「稲毛の団地群」(カラー)

秋山は早稲田大学政経学部を経て東京総合写真専門学校で学ぶ。当初は若者で賑わう銀座みゆき通りに集まる通称「みゆき族」をテーマにした「若者たちの群像」シリーズでデビュー。友人の佐藤晴雄との共作「人間砂漠」、「區」、「周縁遊歩」などを発表。地図出版社の仕事で東京巨大都市をヘリコプターで撮る。

都市が肥大化し古くからの町が次々と壊され、巨大ビル群が誕生するありさまを「ヘリの目、ゴジラの目」と表現した。

細々とした木造家屋が集まる入り組んだ路地から、幾何学的構成の新生都市へと変貌する姿が、あるときは造型美として、季節による色合い、自然美として捉えられている。路上の人物では見ることのできなかったものが、空中からは意外な物体として見え、その不思議な様相が手にとるように見られる玉手箱のようだ。大東京の空中散歩読本として楽しめる。まさにゴジラの目に相応しい内容である。4,529本収蔵。



第40回 2015JPS 展開催

写真展事業委員会

社会状況が複雑になるとともにボーダレス化が進み、様々な価値観を持つ人が増えて、表現も一層多様化してきました。写真という私達の生活に最も近いメディアもその例にもれず、記録という原点を保ちつつ、多種多様な表現を手にするようになりました。3.11の厳しい現実を経験した写真の世界も、記録や表現について大きな影響を受けました。

JPS展は今年40周年を迎えますが、昨年までの会場の東京都写真美術館が改修工事に入ったため使用できなくなり、今年は上野の東京都美術館で開催することになりました。

森羅万象をモチーフとする写真というメディアの特性上、応募作品の内容は実に変化に富んでいて大変見応えがあります。時代の持つ日常性を鋭く捉えた作品をはじめ、四季の豊かな自然の表情を表現したもの、祭りや伝統行事、日常生活の中で垣間見えるユーモアやペーソスを感じる情景、動植物の変化に富んだ姿など、多彩な作品と出会いました。写真の面白さ、魅力などを存分に伝える作品に加え、近年著しくその機能をアップしているデジタルカメラによるクリエイティブな映像表現など、視覚的な面白さと魅力に満ちた作品が数多くありました。

JPS展の内容を豊かにしている要素の一つである18歳以下部門は、技術上或いは表現上に多少の問題があっても、常識に捉われない自由で想像力に満ちた作品が多く、写真というメディアの可能性を強く感じました。一般公募作品に加え、写真を学ぶ学生たちによるヤングアイのコーナーは、一枚のパネルを複数の学生の作品で構成展示するということに面白味があり、個人作品の展示とは一味違った魅力と可能性を感じます。

JPS会員の作品は昨年に引き続き「プロの眼」というタイトルで展示します。タイトル名を「プロの眼」とし、3枚組の写真にすることで、作品に対する作者の撮影意図や狙いがより明確になり、バラエティに富んだ展示になりました。

公募作品、ヤングアイ、会員作品など、全体を通して写真というメディアの持つ豊かな表現力と内容の奥深さなどを感じ取っていただければ幸いです。

ご後援いただいた文化庁をはじめ、様々な形でご協力いただいた関係各位、JPSの賛助会員の皆様にも、心から御礼を申し上げます。

応募者総数	2,056名	6,861枚
入賞・入選者数	280名	490枚
会員出品者数	50名	150枚
ヤングアイ参加数	17校	17枚



公募作品審査風景 撮影：天神木健一郎
審査員（左から）、林 義勝、安珠、田沼武能（審査員長）、中村征夫、藤森邦晃（『フォトコン』編集長）の各氏

東京展

東京都美術館／6月11日（木）～6月26日（金）
（ギャラリーB・C） 9：30～17：30 6月15日（月）休館

後援／文化庁、東京都、東京都写真美術館

表彰式／6月13日（土）13：00～14：30

東京都美術館 ロビー階講堂

講演会／6月13日（土）15：00～16：30

東京都美術館 ロビー階講堂

「編集長に聞く～コンテスト応募指南～」講師：藤森邦晃（『フォトコン』編集長）、熊切圭介（日本写真家協会会長）

祝賀パーティー／6月13日（土）17：00～19：00

東京都美術館 2階レストラン「MUSEUM TERRACE」

フロアレクチャー／会期中随時

協力（会場モニター提供）：EIZO(株)、パナソニック(株)

名古屋展

愛知県美術館／7月15日（水）～7月20日（月・祝）
（展示ギャラリーE、F室） 10：00～18：00
（金曜日 20：00閉館、最終日 17：00閉館）

後援／文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、
名古屋市、名古屋市教育委員会

表彰式・講演会／7月18日（土）

愛知芸術文化センター 12階アートスペース A

13：00～13：50 東海地区入選者紹介

14：00～15：30 講演会「新しい星景撮影手法」

講師：木村芳文（山岳・星景写真家）

イベント／7月18日（土）10：00～12：00

愛知芸術文化センター 12階アートスペース E・F

「デジタル一眼カメラで撮る『家族写真』」

講師：JPS展名古屋展委員

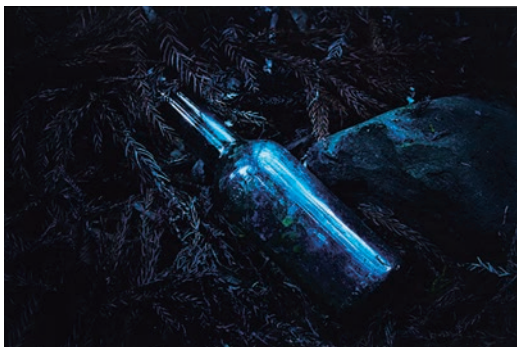
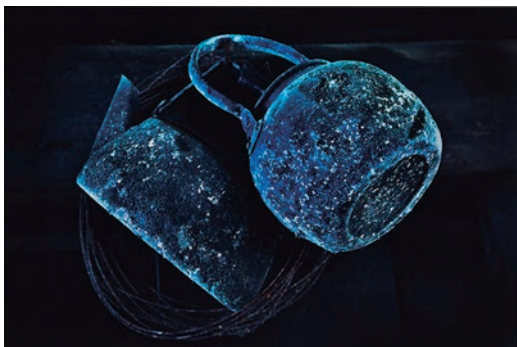
文部科学
大臣賞

大浦 美保 (和歌山県)

「時を経て」 カラー 3枚組

賞状・楯・副賞

賞金 50万円



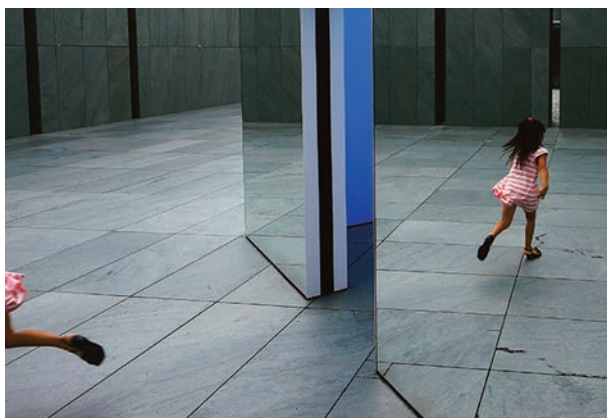
東京都
知事賞

西川 靖弘 (大阪府)

「駆ける少女」 カラー単写真

賞状・楯・副賞

賞金 30万円



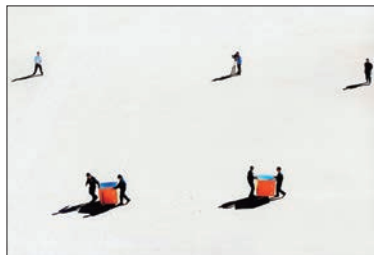
18歳以下部門

最優秀賞

金本 凜太郎 (広島県)

「humans and」 カラー 3枚組

賞状・楯・副賞



関西展

京都市美術館別館 / 8月25日(火)～8月30日(日)
9:00～17:00

後援 / 文化庁、京都府、京都府教育委員会、
京都市、京都市教育委員会

表彰式・講演会 / 8月28日(金)

京都市国際交流会館イベントホール

13:00～14:30 関西地区入選者紹介とビジュアルパ
フォーマンス、15:00～16:30 講演会

「[京都] 四季のうつろい」 講師: 中田 昭 (JPS 会員)

イベント / 8月25日(火) 10:00～16:00

「浴衣で写真教室」 講師: JPS 会員

協力: エプソン販売(株)、(株)ニコン、(株)ニコンイ
メージングジャパン



金賞

賞状・楯・副賞
賞金 15 万円

菅野 秀明 (東京都)
「田舎にて」 カラー 3 枚組



銀賞

賞状・楯・副賞
賞金 10 万円

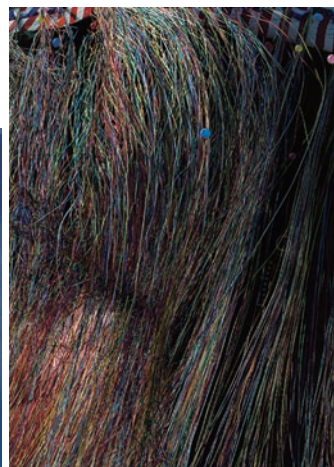
大倉 清司 (東京都)
「地球を感じて」 カラー 単写真



銀賞

賞状・楯・副賞
賞金 10 万円

杉本 英夫 (京都府)
「新たな門出」 カラー 3 枚組

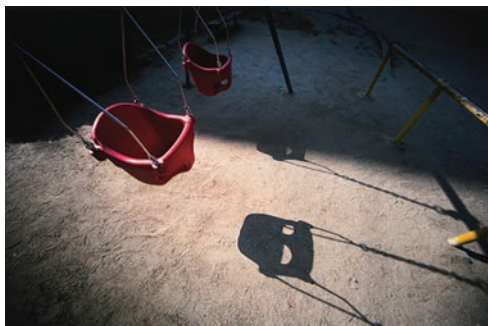


銅賞

賞状・楯・副賞
賞金5万円

佐藤 豊 (大阪府)

「記憶の滲出」 カラー3枚組



銅賞

賞状・楯・副賞
賞金5万円

浅野 和夫

(大阪府)

「にらめっこ」

カラー単写真



銅賞

賞状・楯・副賞
賞金5万円

上田 智子

(京都府)

「Smile」

カラー単写真

【ヤングアイ部門】

日本写真家協会

会長賞

賞状・楯・副賞

九州産業大学

芸術学部

写真映像学科

タイトル

「風染みて」

幸喜ひかり

比嘉緩奈



ヤングアイ

奨励賞

賞状・楯・副賞

宝塚大学

造形芸術学部 制作力創造学科

タイトル「刹那の向こうがわ」

桑田紗季、松本真依



アマナ

IMA 主催のポートフォリオレビュー —『STEP OUT!』第3回開催決定

作品の講評だけではなく、自分の作品を売り込む場、レビュー者にとっては新たな作家と出会う場として、新たな作家がデビューするきっかけとなる場となることを目指してスタートした IMA 主催のポートフォリオレビュー『STEP OUT!』の第3回が開催決定。

2015年8月22日-23日開催。詳細は下記サイトをご覧ください。(随時更新)

<http://special.imaonline.jp/stepout/>

また、IMA メディアでは旬の写真作品や写真家の声、歴史や世界の最新情報などを満載して写真をめぐるさまざまな楽しみを伝える雑誌『IMA』や、杉本博司、川内倫子、水谷吉法、ステイブン・ショアなど国内外の注目作家の写真集を刊行しています。

雑誌『IMA』は2月、5月、8月、11月の29日(2月のみ28日)発売です。

株式会社アマナ

担当: IMA メディア 販売企画部 八田真佐子

連絡先: 〒140-0002

東京都品川区東品川 2-2-43

TEL: 03-3740-4560

Mail: sales@imamagazine.jp

<http://imaonline.jp/>

キタムラ

カメラのキタムラ 写真を「撮る」「プリントする」だけでなく、「作る」楽しさをプラスする「Photo + (フォトプラス)」を展開

株式会社キタムラは、全国900店舗を展開するカメラのキタムラで、お客様が「フォトブックなどの写真作りを快適な環境で行える」、「写真作りの時間そのものを楽しめる」ことを新コンセプトに、「Photo +」コーナーを4月より全店舗に順次導入いたします。

写真は「撮る」楽しさだけではなく、撮った後に「作る」ことを楽しみ、それを親しい人と見ることでまた楽しむ、複合エンターテインメントと言えるものです。写真に作る楽しさをプラスしてフォトブック、作るプロセスとその時間の楽しさを付加価値に、カメラのキタムラでは「フォトプラス」として展開してまいります。

店頭でのフォトブック作成には時間がかかることもあり、その時間を快適に過ごし、写真作りそのものを楽しんでいたく空間作りが必要とされてきました。カメラのキタムラでは「フォトプラス」コーナーを全店舗に順次導入し、低めで幅広のテーブルと、大きなモニター画面で、写真選びやフォトブックの編集をより快適に楽しめる環境作りを進めてまいります。



株式会社キタムラ

広報担当: 佐藤

TEL:050-3116-6300 FAX:045-476-0778

堀内カラー

ファインアート・プリントサービス 開始



これまで多くの写真作家の皆様と培ってまいりましたプロラボの「ファインアート・プリント」を、国内外有数のインクジェット・アーティスト用紙でご提供いたします。

以下の7種類をご用意しましたので、それぞれの個性と美しさをお楽しみください。

フレスコジクレー

フレスコ画の技法を現代に再現した漆喰シート/フレスコジクレーを使ったプリントです。

■フレスコジクレータイプS(スムース)

表面に上品で繊細なテクスチャーを施した無光沢紙、美しい表現と落ち着きのある質感が得られます。

■フレスコジクレータイプR(ラフ)

表面に柔らかな凹凸のテクスチャーを施した無光沢紙、キャンバスを連想させる温かみのある風合いが得られます。

用紙の詳細は <http://www.fresco-g.com/>

ハーネミュレ ファインアート

ドイツ・ハーネミュレ社のインクジェットファインアートペーパーを使ったプリントです。

■ハーネミュレ ファインアート バライタ

上質な光沢と質感、広い色再現域や高い最大濃度

と滑らかなグレーの階調再現でモノクロ写真に最適です。

■ハーネミュレ フォトラグ

繊細で滑らかな面質によりモノクロとカラー写真のどちらにも適しており印象的な深みが得られます。

用紙の詳細は

<http://www.hahnemuhle-jetgraph.jp/product/>

ヴァンヌーボ

印刷用ファインペーパーで定評のあるヴァンヌーボのインクジェット対応のプリントです。

■ファインアート ヴァンヌーボ SW

ヴァンヌーボVスノーホワイトをベースにしたUVインクジェットプリントで豊かな手触りが得られます。

用紙の詳細は <http://takepaper.com/special/>

伊勢和紙 Photo

インクジェットプリント用の厚手和紙の特性を活かし、柔らかな優しい印象を持ったプリントです。

■伊勢和紙 雪色

純白に近いため忠実な色表現が可能で、しっかりした厚みと硬さがあり柔らかく優しい作品に仕上がります。

■伊勢和紙 芭蕉

地色はオフホワイトで温かく緻密な描写と表面光沢によりシャープで立体感のある表現が得られます。

用紙の詳細は <http://isewashi.co.jp/>

株式会社堀内カラー フォートアートセンター

担当: 清水 未永

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-6-7

TEL:03-3383-3358 FAX:03-3383-3360

E-mail: photoart@horiuchi-color.co.jp

東京工芸大学

「写大ギャラリー 40周年記念展」

2015年4月20日(月)~9月27日(日)

第一期(1975~1984)4月20日(月)~5月24日(日)

第二期(1985~1994)6月1日(月)~7月5日(日)

第三期(1995~2004)7月13日(月)~8月8日(土)

第四期(2005~2015)8月24日(月)~9月27日(日)

東京工芸大学は1923年に創立され、90年以上の歴史を持つ我が国で最も伝統のある写真教育機関です。その中で写大ギャラリーは、国内外の優れた写真のオリジナルプリントを展示・収集・研究する常設施設として1975年5月に開設されました。ちょうど2015年は写大ギャラリー開設40周年を迎える年にあたります。

現在、写大ギャラリーでは1万点を超えるオリジナルプリントを所蔵し、アメリカの巨匠ウィン・バ

ロックの日本初個展 (1975年5月)を皮切りに、これまでに237回(2015年3月現在)の写真展を開催してきました。

本展は、写大ギャラリーの40年間の歩みを振り返り、十年ごとの四期に分け、それぞれの時代に話題となった写真展から、珠玉のオリジナルプリントを選んで紹介するものです。主な出品作家は第一期ウィン・パロック、細江英公、第二期マリオ・ジャコメリ、渡辺義雄、第三期ロバール・ドアノー、ウォーカー・エヴァンス、第四期木村伊兵衛、安井仲治 他を予定しております。皆様、是非お立ち寄り下さい。

(10:00 ~ 20:00 開館 会期中展示替え閉館期間あり 無休・入場無料)



東京工芸大学 写大ギャラリー

担当: 吉野・堀田

〒164-8678

東京都中野区本町2-4-7 芸術情報館2F

TEL:03-3372-1321 (代)

FAX:03-5388-7996

<http://www.t.kougai.ac.jp/arts/shadai/>

ケンコー・トキナー

ケンコー・トキナー新本社、中野に

株式会社ケンコー・トキナーは、昨年9月から随時中野の新本社に移転、今年2月に修理部門を移転し、中野への集結を完了させました。新本社には、ケンコー・トキナーグループ製品を3,500アイテム在庫する「ケンコー・トキナーサービスショップ」には、スタジオを併設。スタジオ用品を試用しながら撮影できます(3時間1万5千円のレンタル制あり)。詳細はお問い合わせください。ケンコー・トキナーサービスショップでは、トキナーレンズやスリック三脚の修理も受付しています。サービスショップでは会員登録もっており(有料540円)、ショップでの買い物割引や修理料金の割引も行っています。

7階には最大70名収容のセミナールームも完備。毎週金曜日の17時~18時にフィルターセミナー(参加無料、予約不要)を開催し、フィルターへの知識の普及活動を行っています。また、セミナールームも様々な活動に貸し出しており(無料)、撮影セミナー、出版記念トークショー & サイン会、プリント



JR・東京メトロ「中野」駅から徒歩7分。

株式会社ケンコー・トキナー

担当: 田原 栄一

TEL:03-6840-2970

eMail: etahara@kenko-tokina.co.jp

セミナーなどの実施の実績があります。ぜひお気軽にお問い合わせください。

新本社住所: 〒161-8616 東京都中野区中野5-68-10 KT 中野ビル

キャノンマーケティング ジャパン

高画質 4K 動画と約 1,200 万画素の静止画撮影を可能にする、小型・軽量 4K ビデオカメラ「XC10」を 2015 年 6 月中旬より発売します。



高画質 4K 動画により高精細で臨場感あふれる映像制作が可能

高感度の 1.0 型 CMOS センサーと、光学 10 倍ズームを搭載した 4K ビデオレンズ、高速に演算処理を行う映像処理プラットフォーム DIGIC DV 5、キャノン独自のビデオフォーマット「XF-AVC」のすべてを新開発し、高画質な 4K 動画の撮影・記録を実現します。4K 動画の圧縮方式は、最大 305Mbps のハイビットレートを実現する Intra Frame を採用し、4K 動画の高画質を維持しながら高圧縮することで、データ容量を軽減することができます。

約 1,200 万画素の高感度な静止画撮影と 4K 動画からの静止画切り出しが可能

有効画素数約 1,200 万画素 1.0 型高感度 CMOS センサーの搭載により、ISO20000 の静止画撮影が可能です。また、メカシャッターを搭載し、素早く動く被写体も歪(ひず)みなく撮影できます。さらに「4K フレームキャプチャー」で、4K 動画から 30 コマ/秒の瞬間を約 829 万画素の静止画で記録できます。さらに小型化・軽量化の実現とチルト式液晶と縦に前後約 90°回転可能なグリップの採用により、ユーザー任意の位置や角度からの撮影が可能です。機動力を必要とする映像制作に貢献します。

■業務用デジタルビデオカメラホームページ

canon.jp/prodv

キャノンマーケティングジャパン株式会社

■商品に関するお問い合わせ先 キャノンお客様相談センター

TEL:050-555-90004

リコーイメージング

K シリーズ最上位のデジタル一眼レフカメラ「PENTAX K-3 II」を発売



リコーイメージング株式会社は、デジタル一眼レフカメラ「K」シリーズの最上位機種「PENTAX K-3 II」を発売いたしました。ローバースレス仕様の高精細 CMOS センサー(カメラ有効画素数約 2435 万画素)の採用やシリーズ最高となる手ぶれ補正機能(4.5 段分)に加え、イメージセンサーユニットを 1 画素ずつ微細にずらしながら 4 回撮影した画像を 1 枚の画像に合成する超解像技術「リアル・レゾリューション・システム」を新たに備えています。1 画素あたり 1 つの色情報しか取得できない従来のベイヤー方式に対し、画素ごとに RGB 各色の情報取得を可能とすることで、細部までのディテールや色再現に優れ、きわめて解像感が高い超高精細画像が得られる新機能です。また、GPS ユニートをカメラ本体に内蔵することで、撮影場所の正確な記録や簡易天体追尾撮影なども専用アクセサリなしで可能となり、従来以上に多彩なシーンでの作品づくりにご利用いただけます。

リコーイメージング株式会社

プロ機材グループ

担当: 原 狩野

連絡先: 〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

TEL:03-6327-3690

FAX:03-3558-3322

(各社からお送りいただいた原稿をそのまま掲載しました。構成/伏見行介)

もうひとつの結婚式 (表紙写真) ————— 三澤武彦

結婚式を専門業者に依頼するようになって久しくありません。でも、もともと婚礼文化はその地域で根付いていた民間の文化でした。わたしはその「嫁入り文化」を再現する撮影をしています。花嫁さんが移動するとき、昔なら輿・籠を使ったのですが、とりあえず軽トラに載せてみようとなりました。でも抱き上げるわけにもいかず考えた末、ブロックを積み上げて荷台まで階段を作ることになりました。みんなでわいわいブロックを積みながら、結婚式ってこういうものだったのだと感じました。

スペッコ村の踏地 (表4写真) ————— 吉村和敏

イタリアのウンブリア州の片田舎にある大きな村。スパシオ山から切り出されたピンク色の石がほとんどの建築に使われ、村を明るく彩っている。2つの塔がある門を潜り目抜き通りを歩きはじめたとき、他の村よりも多くの花が飾られていることに気がついた。進んで行くと花の数はどんどん増えていき、花いっぱい路地と出会ったときはさすがに驚いた。魅力ある景観を持つ村なので観光客も多く、土産物店、画廊、ワインショップが点々としていた。

世界遺産ランドヴァッサー橋 ————— 櫻井 寛

スイスを代表する鉄道橋の一つ、ランドヴァッサー橋を渡る「ベルニナ・エクスプレス」。1902年完成のこの橋を含め、「レーティッシュ鉄道アルブラ線／ベルニナ線と周辺の景観」は2008年に世界遺産に登録された。高さ65mのこの橋を通過する際には、車内から歓声があがり、シャッター音が響く。

青い流れ、水辺に咲く ————— 菊地晴夫

美瑛川の青い流れが美しい。

この川の水が砂防用の堤防によって堰き止められたのが近年、ことあるごとにメディアで取り上げられるようになった美瑛町白金地区にある「青い池」である。

美瑛川には水酸化アルミニウムなどが多く含まれており、水中に差し込んだ太陽光がコロイドの粒子と衝突散乱して美しい青色に見えるといわれている。

水辺にはエゾアジサイが花をつけていたが、川の美しさとは裏腹に魚はすめない。水酸化アルミニウムを含んでいるためなのであろう。

JUMPING IN THE SUNSET ————— 高砂淳二

中米ホンジュラスの海をボートで走っていた。夕日はちょうど沈んでしまったところで、水平線の上はまだオレンジ色に輝いていた。辺りを泳いでいたイルカがそのオレンジの光の中で豪快にジャンプした。目を疑うほどの素晴らしい瞬間だった。イルカやクジラは一度ジャンプをすると、もう一度か二度ジャンプをすることがあるのを知っていた僕は、その方向にカメラを構え、もう一度ジャンプするよう祈った。するとそのイルカは僕の期待に応えてくれ、もう一度威勢のいいジャンプを披露してくれたのだった。

三國志巡禮 ————— 小松健一

「三国志」の舞台である中国大陸の取材を始めてから四半世紀の歳月が流れた。車、列車、船で移動した走行距離は、約六万七千キロに及ぶ。

魏、呉、蜀の三国が並び立ち、覇を競った三国時代は、今から千八百年ほど前のこと。風雪の歳月は重く、当時をしのぶ建造物や戦跡をうかがうことは難しい。しかし、はるか太古の昔より中国大陸を貫流してきた黄河や長江の流れは、当時の姿で迎えてくれた。

写真は浙江省蘭溪市諸葛鎮で。この村には現在も四千五百人の諸葛孔明の子孫が暮らしている。

プヤ・ライモンディイ ————— 木原 浩

南米ペルーのアンデス山脈、ブランカ山群に、高さ10メートルにもなる世界最大の花茎を持つ花があると聞いて出かけて行った。生育地は標高4200メートル。谷あいの広大な草原に、点々と電柱のように立っていた。テントを張り、丸3日間この花を撮り続けた。様々な角度から、また、朝、夕の光線など、数多くシャッターを押したが、曇天時、テントのすぐ側から素直に撮ったこの一枚が気に入っている。

孤高の肉体 ————— 瀬戸秀美

ファルフ・ルジマトフ(バレエダンサー)

1963年、ウズベク共和国(旧ソ連)タシケント生まれ。今なお、現役でクラシックバレエからモダン作品まで、はば広くこなすバレエ界のカリスマ。

舞台上で踊動する肉体をスタジオに移し、完璧なまでに鍛え上げられたダンサーの肉体を表現してみた。

湖面の造形 屈斜路湖 ————— 水越 武

我が家から少し歩くと視界が開け、屈斜路湖がその日の天気によってさまざまな表情を見せてくれる。

このカルデラ湖は12月から湖面が凍り始め、年明けには全面が結水する。4月まで半年近くの間、変幻する雪や氷の造形が楽しめる。風の強さによっても、また陽射しによっても変わり、水の華ともいえる雪と氷の神秘的な美しさに私はいつも驚異の目を向ける。

水は摂氏0度を境に液体から固体に変わり、液体より固体の方が重いという性質によって、このような造形を我々は目にできる。

岩手県、久慈の朝市 ————— 池田進一

旅をしながら朝市のおばさんたちの写真を20年間撮り続けてきた。朝市は人が集まる場所であり、物が集まる場所でもある。朝市は地域に根ざした生活市で、各家庭の台所と直接つながっている。お客さんはおいしいもの目当てにやってくる、顔見知りなので安心して買っていく。あちらこちらから、おしゃべりや笑い声が聞こえてくる。朝市には笑顔が溢れ、東北の冬の厳しさが人の温もりに消えていった。

おめでとうございます

—— 「土門拳賞」受賞おめでとうございます。

下瀬 私は1944年に旧満州の新京で生まれました。父が満州映画協会で仕事をしていて関係で、戦前、長州の人の多くは新天地を求めて大陸に渡ったんです。1歳のとき敗戦となり、父の故郷萩に引き揚げてきました。父はそこで写真館を始めました。子どもの頃はSF小説や詩歌が好きで、よく本を読みました。昆虫採集や化学実験にも夢中になる科学少年でしたが、文才もなく、勉強もできなかったので、詩人や科学者になることは断念しました。ものを創造したり表現したりするのが好きでしたから、押せば写る写真に興味を持ち、近辺の風景や友人などを撮って楽しんでいました。17歳のとき、父が亡くなり、跡を継ぐことになり2年間、日吉の東京総合写真専門学校で重森弘淹先生、山岸章二氏などから新しい時代の写真を教わり、写真集などを読み漁りました。卒業時に校長の重森先生に相談したところ、「学校の助手をしながら研究科で勉強したら」と勧められたんですが、家業を女手一人で守っている母から猛反対され、やむなく帰郷して跡を継ぐことになったんです。22歳でしたが、重森先生からは「頑張って一人前の写真家になれ、褒められることも大事だが、無視されるより駄目といわれることも大切なんだよ」と励まされ、生き方や志の持ち方など人生訓を教わりました。田舎ではさして目新しい出来事があるわけでもなく、身近な対象をコツコツと撮っては『カメラ毎日』の山岸氏のもとへ持参し、写真を見てもらいながら、コンテポラリーフォトや私写真など時代を先駆ける作品に刺激を受けました。

家業を継ぎながら、35mmカメラで地元の人々や古い街並みを捉え、写真集『萩・HAGI』を出版し、日本写真協会の新人賞（1990年度）をいただくことができました。新人としては遅咲きの45歳のときです。選評で梶原高男先生が「繊細でみずみずしい感覚」と評してくださったのがきっかけで、次のテーマを海風と山風が入れ替わる風のとときに去来する間を撮ることにしたのです。それが写真展「風のととき」と「風の中の日々」で、写真とエッセイで綴ったものでした。この写真も

10年くらいかかりました。

—— ところで今回の受賞作となったのは写真集『境界』（平凡社）ですね。

このシリーズは1996年のニコンサロンでの写真展から始まり、写真集になるまで実に20年もかかっていますが、どこにそんな粘りがあるんですか。

下瀬 結果的に20年もかかっていますが、私は小型カメラで機動的に撮るというよりは、じっくり腰を据えて撮るタイプですね。勿論「境界」シリーズは4×5から8×10インチの大判カメラを使っているところもありますが、それは大判でなければ表現しきれない緻密で高精細なモノクロ写真であることも理由の一つです。

ごく身近なありふれた自然の息吹に目を向け、あまり「写真になりそうもないもの」をモノクロームで細密描写することによって、自然が作り出した造形に神秘さを感じるのです。霜の降りた草むら、イノデの新芽、カラスウリとクサネムなどの草花が作り出す造形美、明木川のさざ波、溪流の水面などの流れる水が刻々と変化する様は好きです。対照的なものにイボタ蛾やヤマカダシが脱皮したものは奇妙なものといった印象的なものもあります。精緻に捉えることで自然界の息吹と変転、生と死の輪廻を見ることができのです。

—— 写真集のタイトル『境界』の意味について解説いただけますか。

下瀬 「境界」とはサンスクリット語を語源に仏教用語として中国から伝わり、空海が高野山に結界して女人の入山を禁じたことで知られ、「浄界」と「不浄界」を隔てることとの意で、神仏で張る「注連縄（しめ縄）」、空間領域（境界線）を表すもので、古来から日本人は自然のものに神が宿り、霊的なものを感じるといわれており、私はその聖的な世界に惹かれ、自然の鼓動を感じながら撮り続けています。この受賞を糧にさらなる作品を作っていこうと思っています。

—— ありがとうございました。

（取材：平成27年4月17日 如水会館授賞式会場にて
聞き手／松本徳彦 撮影／小池良幸）

第34回土門拳賞



受賞者 下瀬 信雄 さん

クラウドストレージサービスによる 画像データの保存

デジタルカメラで撮影した後で問題になるのが、画像データの保管と管理。増え続ける画像データをどのように管理したらいいのかに頭を悩ませている人も多いに違いない。今回は、クラウドストレージサービスによる画像保存を Eyefi の Eyefi Mobi Pro カード と写真に特化して開発された Eyefi クラウドを例に紹介していこう。

■ クラウドサービスとは

インターネットの普及により、様々なクラウドサービスが普及し始めています。クラウドサービスの「クラウド」とは、クラウド(雲)コンピューティングを使って提供されるサービスのこと。インターネットでつながっているサーバーにメールや文書、画像などのデータやソフトウェアを保存して、必要な時にインターネット経由で呼び出して使うことができるようになっていきます。

写真家にとって便利なサービスが、大量の画像データをクラウドサーバーに保存できるクラウドストレージサービス。代表的なものに Google ドライブ (www.google.com/)、Dropbox (<https://www.dropbox.com/>)、Evernote (<https://evernote.com/>)、Apple の iCloud (<http://www.apple.com/jp/icloud/>) などがああります。また Mac に特化したクラウドストレージサービスとして、Mac Server (<http://www.macserver.jp/>) というものもあります。

■ Eyefi Mobi Pro と Eyefi クラウド

アイファイジャパンが3月27日に発売した Eyefi Mobi Pro (アイファイ モビプロ) 32GB は、無線 LAN 機能を内蔵した SDHC メモリーカード。RAW 画像の転送や選択した画像のみの転送、WiFi ルーター経由での高速転送などが可能な記録メディアです。

対応するデジタルカメラに Eyefi Mobi Pro カードを挿し、記録メディアとして使うことで、連携させたタブレット、スマートフォン、パソコンなどのデバイスに、ワイヤレスで画像データや動画のデータを転送することができます。初期設定は、デバイスに専用アプリをインストールし、アクティベーションコードを登録して、デバイスと Eyefi Mobi Pro カードをペアリングさせるだけという手軽さです。

現在、Eyefi カードは主要カメラメーカー 1,000 機種以上のデ

ジタルカメラと互換性があり、そのうち約 400 機種のカメラに Eyefi 連動機能が搭載されています。

この Eyefi Mobi Pro カードには、容量無制限のクラウドサービス

Eyefi クラウドのメンバーシップ1年分が付属しています。Eyefi クラウドのサービスは、写真に特化して開発・デザインされているのが特長です。しかも Eyefi Mobi Pro カードは、RAW 画像の転送や選択した画像のみの転送、WiFi ルーター経由での高速転送ができるので、Eyefi クラウドと合わせて利用することで、RAW + JPEG で撮影した画像データを屋外ではデータ容量の小さい JPEG 画像だけをスマートフォンで受信、家に戻ったところでホームネットワーク内のパソコンに RAW 画像も転送するといった、柔軟な運用が可能となります。

Eyefi クラウドのクラウドメンバーシップ料金は 5,000 円 / 年。Eyefi Mobi Pro の市場価格 9,980 円(税込)には、1 年分のクラウドメンバーシップの料金が含まれています。また、オ



Eyefi Mobi Pro 32GB



Eyefi Mobi デスクトップアプリの画面。スマートフォン、タブレットそれぞれに専用アプリをインストールして使用する。



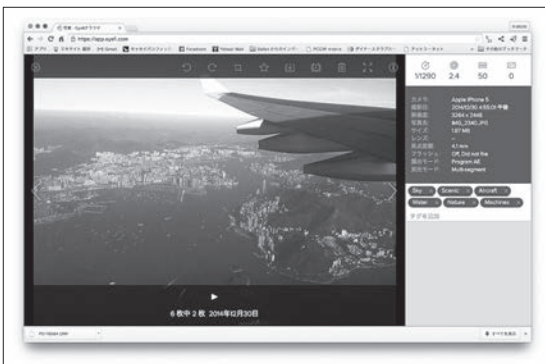
Eyefi Mobi Pro カードに対応するカメラの互換性はサイトで確認することができる。

リンパス社製の WiFi 内蔵カメラからは、Eyefi カードを介さず Eyefi Mobi アプリによる画像転送が可能です。さらにオリンパス社製カメラで撮影された画像が Eyefi クラウドにアップロードされると、Exif データを認識して Eyefi クラウドのメンバーシップが無償で 30 日分延長され、さらにメンバーシップを継続する場合には、クラウドメンバーシップ料金が 30% 引きになるといった特典も用意されています。

容量無制限とは言え、大量の画像データを Eyefi クラウドにアップロードすると、その管理が大変になりそうですが、新しいモバイルアプリでは、Eyefi クラウドに保存された全コレクションの閲覧・編集・共有ができ、撮影画像の Exif 情報を参照したり、画像を 2 枚横並びで比較することができます。

また、新機能としてスマートビューとスマートタグを搭載。スマートビューは、画像検索の条件を保存し、それをもとに新規ビューを作る機能。スマートタグはタグ付け作業を自動化する機能で、認識画像を「動物」「イベント」「食べ物」といった 10 のカテゴリに分けます。全部で 80 のサブカテゴリが用意されています。画像の認識は、クラウドへのアップロード時に自動で行われ、ひとつもしくは複数のタグが付与されます。もちろん、パソコンやモバイルアプリ上で、手動でタグを修正することもできます。

位置情報、撮影日時などの Exif 情報とスマートタグの情報により、クロス検索が簡単にできるようになっています。なお、Eyefi クラウドはアップロード画像に一切手を加えない仕組みとなっており、画像に付与されたタグは、画像と別ファイルで管理されます。Eyefi Mobi アプリなどでは、画像の閲覧・編集が可能ですが、オリジナル画像はそのまま残るとい



専用アプリでは、画像の削除や回転、ダウンロード、加工などができる。



パソコンやほかのデバイスでも同じように写真が一覧表示される。

うわけです。

■ クラウドストレージサービスの注意点

このように、クラウドストレージサービスをうまく利用すれば、大量の画像データを手軽に保存して管理することができますようになります。データのバックアップなどにも役立つことでしょう。

ただし、クラウドストレージサービスの仕様やサービス内容は様々です。多くのクラウドストレージサービスでは、無料で利用できる容量や期間が設けられていて、必要に応じて有料で容量を拡大したり、期間を延長することができます。また 1 ファイルのデータ容量に制限があったり、セキュリティや料金設定にも違いがあります。

キャンペーンなどで一時的に容量が拡大される場合がありますが、キャンペーン終了時に元の容量に戻ってしまい、使い勝手が悪くなるということも少なくありません。海外で利用する場合には、サーバーにアクセスできる環境かどうかを確認しておく必要もあります。

自分の作業環境に合ったクラウドストレージサービスはどれなのか、比較検討をして、賢く利用していきましょう。

(記／出版広報委員：柴田 誠)

問い合わせ先：Eyefi ホットライン TEL.03-6419-9927

月曜～金曜(年末年始・休祝日を除く)

10:00～12:00、13:00～17:00

<http://jp.eyefi.com/>



画像の詳細情報では撮影データやタグの情報が表示される。



Message Board



◆林 義勝 (1975 年入会)

林忠彦写真展「カストリ時代 1945・48 & AMERICA1955」7月27日～8月25日迄品川キャノンSギャラリー2階新設ギャラリーにて開催致します。林忠彦が戦後の日本を写し撮った「カストリ時代」と戦後から10年経ったアメリカを写した写真を同時に展示し戦後のアメリカと日本の対比から改めて「戦争」とは何だったのか、そして、現在の日本を考えるきっかけとなる写真展にしたいと思っている。

(東京都新宿区在住)

◆池谷俊一 (1992 年入会)

私は写真研究会を指導主宰している。ひとつは地方展で24年で24回写真展。もうひとつは東京展で2回展。地方と都内の写真者の思考性に差異発見。それは写真表現の範疇が、地方には写真しかないという刻印。具象形抽象の創出地点は、認められていず指導者に其の教養が不在。

写真生命はア
リバイ
記録が
唯一故
に、召



許証パスポートは写真限定。だがそれ故に激動する時代波に活潑な写真力が沮喪れる。プロ写真家こそ多角企投を学びたい。

(静岡県御殿場市在住)

◆水越 武 (1972 年入会)

27歳で写真をはじめた私は今年でこの道50年となる。その成果をまとめる写真集『真昼の星への旅』を新潮社から3月に出版した。山を中心とした自然の写真で、全99点の作品をモノクロームのみで構成した。そしてすべての作品を、フィルムで撮影しバライタ紙でプリントした写真にこだわった。労苦をいとわず、納得するまで何度でもプリントし直した。しかしなぜか40年前のピンテージプリントが気に入りに、使用した印刷原稿もあった。写真を取り巻く世界が激変する中で、モノクローム用の感材が手に入りにくくなり、地方に住む者は途方にくれる状況だ。モノクロームの仕事の大切にし、拠り所としてきた私は寂しいかぎりである。

(北海道弟子屈町在住)

◆岩堀春夫 (2000 年入会)

以前はいつもカメラバックにセロテープを入れていた。これはピントを固定するために使っていた。最近では失敗して困るような撮影は無くなってしまった。しかし、撮影は続けている。機材も常に更新している。ところがマニュアルフォーカ

スにしているのにピンボケになってしまう。何度か現場で慌てたことがある。その原因は最新のレンズに付いているSTMという機能のようである。これなら古いレンズの方がいいのか。最新レンズにも機能を省略して強度を増したバージョンがあればいいと思う。そういえば、大きな三脚をどこへ行くのにも持っていたのは過去の話になっている。レンズの不満を一つだけあげたが、その他の新機能にはたくさん感謝している。HDR なんかなり利用価値がある。

(兵庫県西宮市在住)

◆西川祐介 (2006 年入会)

4月。街は新社会人や新入学生でにぎやかだ。そして今年もJPSに大勢の新入会員が加わった。でも、少し様子が違うのは、“新入会員”と言っても彼ら・彼女らは私よりも年長者だったり、仕事の上での先輩だったりする点だ。だから新入会員からも学ぶ事は沢山ある。

ここが普通の会社や学校と違うところで面白くもある。ただ入会するだけではなく、様々な分野で活躍している人たちどうし良い影響を与えあったりお互いが発展していける、そういう場として日本写真家協会を利用したいと思っています。

(千葉県四街道市在住)

◆山本昌男 (2001 年入会)

青幻舎より作品集が出版されました。

メキシコのRM社との共同出版です。

青幻舎サイト

<http://www.seigensha.com/books/978-4-86152-453-0>

(山梨県北杜市在住)

◆増田彰久 (1971 年入会)

増田彰久写真展世界遺産「華僑の故郷・開平」を2015年7月24日(金)～7月30日(木)まで富士フィルムフォトサロンで開催いたしますのでよろしくお願いたします。19世紀はじめアメリカ西部はゴールドラッシュで沸いていた。そこに中国広東省の開平の農民が華僑として大量に洗出し、年に一度、稼いだ大金を持って故郷に帰ってくると盗賊に襲われた。そのため防衛的な性能を備えた高層楼閣住宅が数多く建てられた。そして時代と共に開平楼閣は財力を誇示するためのものへと変化し装飾はより豪華な

ものとなった。今まで見たことの無い強い存在感に溢れる建築群を6×9のフィルムカメラで捉え、その造形の無骨で、素朴で、そして優雅さが混在した開平の近代建築の不思議さを伝えたいのである。



(東京都町田市在住)

◆谷津栄紀 (1987 年入会)

会員になって30年近く。憂鬱な月となった4月が、今年も巡ってきました。「コストパフォーマンス」という言葉が、毎年この時期、頭をよぎります。毎月のニュースと、年数冊の会報の購読料と割り切ればいいかと、もしくは、写真文化の発展のためのお布施かと、毎回自分に言い聞かせています。

今年も、通帳の残高を見ながら、しみり思います。

(千葉県松戸市在住)

◆ブルース・オズボーン (2007 年入会) 写真展 開催のお知らせ

タイトル:「親子」～Present to the future～

会期:2015年7月4日(土)～7月31日(金)
11:00～17:00

会場:FCCJ(日本外国特派員協会)
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1丁目7-1 有楽町電気ビル20F

1980年に来日して以来「親子」というテーマに取り組んで、今年で33年目となります。今まで5000組以上の親子に出会い、それぞれの親子が私に多くのことを語りかけてくださいました。今回の展示は、毎日新聞のシリーズ「親子インタビュー」で撮影した写真を中心に展示いたします。

私が呼掛け人となってスタートいたしました「親子の日」は7月の第4日曜日。今年で13回目の「親子の日」は7月26日です。今年この日には、100組の親子を都内のスタジオにご招待して「スーパーフォ



トセッション」という撮影会を実施いたします。
(神奈川県葉山町在住)

◆薄井大遠 (1996年入会)

カメラマン親子の企画撮影による映画「ダライ・ラマ十四世」が劇場公開。
(札幌シアターキノ、近日公開
011-231-9355)
(渋谷ユーロスペース、5月30日公開
03-3461-0211)
(名古屋シネマスコレ、6月公開
052-452-6036)

(松本CINEMA セレクト、7月11日
のみ上映 0263-98-4928)
(長野シネマポイント、7月18日公開
026-235-3683)
(大阪第七芸術劇場、本年夏公開
06-6302-2073)
(京都京都シネ
マ、近日公開
075-353-4723)

(那覇桜坂劇場、夏公開 098-860-9555)

世界6都市、日本国内10都市以上をダライ・ラマと共に旅をし、人々と語り「平和ってなんですか」「幸せってどこにあるの」などをダライ・ラマと共に考えるドキュメンタリーです。
(東京都渋谷区在住)



◆おちあいまちこ (2015年入会)

わたくしの せなかに そっと
お日さまの 手のひら

五行歌をご存知ですか? 五行で縦書きというルールで自由に思いを表現するというものです。昨年、本嶋美代子さんの2冊のフォト五行歌集を出版し、今年3月刊行記念写真展を銀座教文館で開催しました。画像とテキストの両方を展示する方法について悩みましたが、エブサイトで大判プリントし壁面に吊るすことにしました。五行歌への関心は高く、私自身も思いを両方で表現できたら…と思います。

「今日もいいことがありますように」/「泣いても わらっても 心にいい風 ふきますように」本嶋美代子著 写真/おちあいまちこ いのちのこば社 (各¥1,300+税)
(東京都多摩市在住)

◆渡邊英昭 (1988年入会)

小さな鳥が好きだ。ちょっと大きな町は、このところどこも同じようになってしまった。小さな町の方が歩きやすく、おもしろい人やものに出会いやすい。住人みんなが知り合いなので、紹介してもらいやすい。

鳥ならなおさらで、外の世界の動きとは一線を画している。雰囲気も独特なと

ころが多いし、建物も昔ながらのものが残っていて、見るだけのつもりで歩いていても、ついカメラを向けてしまう。そんな島での出会い。
(東京都練馬区在住)



◆和田直樹 (1994年入会)

4月から東京工芸大学芸術学部デザイン科で非常勤講師として1年生を対象に写真を教えています。写真学科ではなく、デザイン科の学生ですから写真の専門的な知識よりも、表現手段としての可能性を知るところを主眼にしています。

先日、課題として8枚組み写真によるフォトストーリーを制作させたのですが、その多彩な表現力に驚きました。多くの学生はスマートフォンを使い撮影をしましたが、被写体を見つけ、自由なアングルからアプローチをし、自在に空間を切り取り、写真に気の利いたキャプションを添えるのです。

この世代にとって、スマートフォンで写真を撮り、それを使って表現することは、息をするのと同じように自然な行動になっているのです。
(東京都練馬区在住)

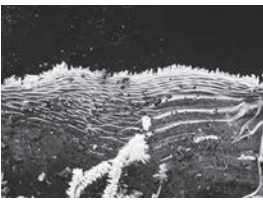
◆佐藤健治 (2015年入会)

今年の総会場で、この「Bord」にメッセージを書くよう強くすすめられた新人会員の佐藤健治です。サラリーマン出身の写真家ですが、50歳になったときに定年までにプロになりたいと思い2009年にAPAに入会することができました。さらに今回JPSに入れていただき、うれしい思いで一杯です。

それぞれの先輩や仲間から得た貴重な情報は、かけがえのない財産です。

今後ともよろしくお願いたします。

この写真は日光で撮った「波に乗りたい私」の心情と重なって見えた「渚のピエロ」です。
(東京都東村山市在住)



◆関行宏 (2009年入会)

時が経つのは早いもので息子もいつの間にか高校3年生になり、高校サッカー部の左サイドハーフのレギュラーメンバーとして活躍している姿を見られるのもあとわずか。できるだけ練習試合や公式試合を訪れるようにしていますが、業柄柄、カメラを持っていかないと気が済みません。

とはいえ、一眼レフボディに単焦点望

遠レンズを付けていくとどうしても大きくなり、年頃の息子からはいつも嫌がられています(苦笑)。

地区の中ではそれほど強くないサッカー部なのでなかなか勝利に巡り合えませんが、可能な限り姿を収めたいと思っています。以上、親ばかメッセージでした(笑)。
(神奈川県横浜市在住)



◆宮沢あきら (2011年入会)

5月下旬、私が主宰するネイチャー系写真教室のツアーで、新緑の上高地に行ってきました。例年に比べ雪が少なく雨が多い今年の気候は、植物の景観にも変化を与え、いつもの芽吹きの色合いからやや濃いめの緑へと季節が進んでいました。ここ上高地は毎年春か秋には訪れる山岳リゾートの名所ですが、今年は大きな変化がありました。

それは大挙して訪れる外国人観光客の多さです。タクシーの運転手に聞いたところ、

欧米をはじめ韓国、台湾・中国からの観光客が急増しているようで、多い日には訪れる人の9割が外国人と聞きました。私が行った日にも大型バスが次々と着き、そのほとんどが台湾・中国からのお客様でした。もちろん日本の素晴らしい景観が世界的に有名になることは嬉しいですが、静かな大正池の畔で、拡声器を使い集合写真を撮っている集団を見てるととても複雑な思いになった2日間でした。
(東京都調布市在住)



◆内堀タケシ (1999年入会)

埼玉県宮代町の近くで田んぼをやって4回目です。近所の田んぼが次々と離農し、今年もお隣りがやめたので1.5反ほど苗を植えました。これ以上増やすには限界もあり躊躇しています。米作りに興味のある会

員の方、一緒に田植えから収穫までやりましょう。自作の新米を食べるのは格別な喜びです。東京からも1時間と近いので^o^ (東京都杉並区在住)



平成27年度(第16回)
公益社団法人日本写真家協会定時会員総会報告

日時:平成27年5月22日(金)、13:30~16:30
会場:アルカディア市ヶ谷5階「穂高の間」
総正会員数:1,594名、定足数:798名
出席正会員数:995名(内訳:本人出席129名、代理委任7名、議決権行使書859名)

定刻に会は始まり、進行の小川総務理事により平成26年度の物故会員10名の氏名が読み上げられ黙祷しご冥福を祈った。続いて平成27年度新入会員、出席の名誉会員、会員外理事、監事、来賓等の紹介があった。

田沼会長より、3月の内閣府の立入検査が問題なく終了したこと、逝去された花井監事への謝辞、JPS創立65周年を迎えて一層の発展につくしたいとの決意表明があり、また協会発展のためにご尽力いただいた在籍40年以上の正会員と賛助会員に感謝状を贈呈する旨の報告があった。

定款により議長に選任された田沼議長の開会宣言ののち議案の審議に入った。

報告事項1:「平成27年度事業計画書」について熊切副会長から総括的な説明があった。



報告事項2:「平成27年度予算書」に関して、松本専務理事より詳しい説明があった。

報告事項3:第41回「日本写真家協会賞」について、熊切副会長より、株式会社堀内カラー様に贈呈すると報告があった。

報告事項4:「会費滞納による正会員資格の喪失の件」について足立常務理事より報告があった。

報告事項5:「平成27年正会員理事候補選出結果報告」が理事選出管理委員会の芳賀委員長より報告された。

続いて決議事項の議事に入った。

第1号議案:「平成26年度事業報告及び決算承認の件」に関して、公益事業と収益事業の面から熊切副会長より説明があり、続いて松本専務理事より「平成26年度決算報告」について、経常収益は141,087,269円、経常費用は140,319,710円で、767,559円の黒字になった」と報告があった。監査報告では栗原監事(公認会計士)より、帳簿及び関係書類が適正であった旨の説明があった。

質疑応答では伏見正会員より①公益法人の赤字決算に関して、江口正会員より②関西メンバーズ展に関して質問があった。①には収支がバランスよくなるよう努力する。②には昨年の総会で同様の質問があり、理事会で検討してニュースで報告しているので確認してほしい、と回答があった。また伊丸岡正会員、能津正会員、西岡正会員より会費値下げや議事進行に関して質問や提案があった。賛成多数で可決承認された。

第2号議案:「任期満了に伴う理事選任の件」について、理事会が推薦する会員外理事7名、続いて正会員の投票により選出された正会員理事候補者13名と補欠2名について、一人ひとり選任が行われ全員が賛成多数で承認された。

田沼会長から任期満了により退任する会員外理事の小野

茂夫氏、杉浦信之氏と正会員理事小池良幸、小川泰祐、楠本秀一の各氏に在任中のご尽力に対して感謝の言葉があった。

第3号議案:「監事(正会員)逝去に伴う監事選任の件」について、定款により理事会で水谷章人正会員を承認したので、総会で選任したいと説明があり、賛成多数で選任された。議長がすべての議事が終了した旨宣言し閉会した。

この後選任された理事と監事による理事会が、別室で開催され、その結果が山口専務理事(新)より報告があった。(下記参照)

4時より同会場にては協会創立65周年を記念して、在籍40年以上の正会員と、賛助会員に対して感謝状の贈呈式が行われた。正会員を代表して野村英男氏と賛助会員を代表して(株)写真弘社代表取締役柳澤卓司氏が田沼会長(前)より感謝状を受け取った。出席の在籍40年以上の正会員と賛助会員がそれぞれに自己紹介を行い、和やかな雰囲気の中で総会後の報告及び贈呈式は幕を閉じた。

会場を「大雪の間」に移して吉岡総務委員の進行で懇親会が開催された。賛助会社を代表してキヤノンマーケティングジャパン(株)プロマーケティング部長相川弘文氏の来賓挨拶と乾杯のご発声で始まり、すぐに会場に多くの歓談の輪が出来た。途中で新入会員の紹介や賛助会員の方々の挨拶もあり会場はにぎやかな雰囲気に包まれた。最後に新任理事と任期満了で退任された理事がそろって壇上に上がり、続いて熊切代表理事(新会長)が新任の挨拶を行った。木村名誉会員の恒例の三本締めでお開きとなった。

(記/書記/飯塚明夫、/記録撮影/桃井一至)

平成27年度公益社団法人日本写真家協会役員

代表理事	会長	熊切圭介
業務執行理事	副会長	松本徳彦
業務執行理事	専務	山口勝廣(総務、財務)
業務執行理事	常務	田沼武能(会長補佐、保存センター)
業務執行理事	常務	足立 寛(教育推進、総務)
業務執行理事	常務	加藤雅昭(出版広報、ホームページ)
業務執行理事	常務	熊谷 正(写真展事業)
業務執行理事	常務	鳥田 聡(企画)
業務執行理事	常務	和田直樹(著作権、国際交流)
理事		伊丸岡秀蔵(新任、企画(副))
理事		川畑秀樹(新任、事業推進(関西))
理事		桑原史成(教育推進(副))
理事		柴田明蘭(新任、総務(副))(関西統括)
理事		足立直樹(凸版印刷(株)代表取締役会長)
理事		加茂川幸夫(独)東京国立近代美術館館長)
理事		佐々木 統(キヤノンマーケティングジャパン(株)顧問)
理事		西岡隆男(株)ニコイメージングジャパン(顧問)
理事		西村陽一(朝日新聞社取締役 編集担当)
理事		宗雪雅幸(公社)日本写真協会会長)
理事		森山眞弓(一財)日本カメラ財団理事長)

監 事	栗原安夫(公認会計士)
監 事	北村行夫(弁護士)
監 事	水谷章人(新任、正会員)

(任期 平成27年5月22日~平成29年5月の総会終結時)

セミナー研究会レポート

◆平成 26 年度第 3 回著作権研究会◆

「身につけよう 著作権の正しい知識」

～写真の創作・表現・伝達を続けるために～

平成 27 年 2 月 28 日 (土)

於：東京総合写真専門学校 203 教室 参加者：81 名

今回の著作権研究会は、神奈川県横浜市にある東京総合写真専門学校の教室をお借りして、土曜日に実施した。

これは、以前から要望のある「著作権の基本を学びたい」「平日は参加できない」の声に応えるものだ。

さらに学生など、若い方でも著作権の重要性と仕組みが理解できるよう、講義が分かりやすいとの評価が高い小川明子先生（法学博士）と山口勝廣常務理事に講師をお願いした。告知など学校の協力もあり、写真家を志す学生と写真家などで会場は埋め尽くされた。



最初の講義は山口理事による「写真著作権を大切にするために！保護期間の差別化変遷について」。明治 32 年以前の出版条令から、ベルヌ条約加盟に合わせた旧著作権法での写真の扱い、そして現在の著作権法に至るまでを時系列で解説。写真の保護期間が他の著作物と同じ「死後 50 年」となったのは平成 9 年のこと。それまで写真著作権は他の著作物と比べて保護期間が短く、常に“差別”されてきた。さらに写真においては、作者が存命中にもかかわらず著作権の保護期間が終了しているとされる問題を報告された上で、「保護復活」運動を繰り返していることや、「戦時加算の問題」についても言及された。

そして小川先生による講義「身につけよう 著作権の正しい知識」。冒頭から「著作権法は何のためにあるのか？」など疑問文を投げかけ、それに答えていくスライドの見せ方は、大変理解しやすい。学生の言葉遣いを使ってみたり、身近な具体例を数多く挙げたりと、会場が先生の話に引き込まれていく。写真や絵をスライド随所に取り入れ、ユーモアある話し方も相まってまさに本研究会の趣旨に合った著作権の解説である。時には笑い、先生の話熱心に聞いている姿からは、しっかりと理解していることを知ることができる。なお講義では次のことを目次として選ばれ、それを軸に解説をされた。

1. 著作権法は何のためにあるのか？

1) 有体物と無体物 2) 著作物？ 3) 法の目的？

2. 著作者、著作権者、保護期間

1) 著作者 or 著作権者？

2) 保護 or パブリックドメイン？

3) 著作者が死んだら？

3. では、著作権とはなんでしょう？

1) 著作権＝著作財産権

2) 著作者人格権の種類

3) 著作者以外の権利

質疑応答では、事前質問に寄せられた「実際の撮影の仕事では、どのような場面で著作権の知識が必要になってくるのでしょうか？」といった学生からの素朴な質問があった。

(記／佐々木貴範、撮影／天神木健一郎)

◆平成 27 年度第 1 回国際交流セミナー◆

タイ国撮影情報セミナー

平成 27 年 4 月 17 日 (金)

於：日本アセアンセンターホール 参加者：40 名

講師：岡部哲雄(時事通信社社会部デスク)

セッタポン・トリチョープ(写真家・タイ国政府観光庁東京事務所マーケティングオフィサー)

佐藤緑(タイ国政府観光庁東京事務所マーケティングオフィサー)

協力：タイ国政府観光庁・国際機関日本アセアンセンター

始めに、同観光庁マーケティングオフィサー佐藤緑氏がタイ国の概要と各地の特徴を紹介し、続いて会場を提供した国際機関日本アセアンセンターから、数十回のタイ訪問経験を持つ神田瑞徳国際交流部長代理が、挨拶とセミナー直前に行われた水掛祭りなど、タイ各地のイベントをスライド写真で紹介した。

時事通信社のバンコク支局長として 2009 年から 4 年間タイ各地を取材した岡部哲雄氏(現社会部デスク)が「特派員が伝える、タイの今」のレクチャーを、以下の内容で行った。

【タイ国政治の流れ】

【タイの社会情勢】

【タイ訪問時の注意点】

赤はタクシン派、黄色は反タクシン派のシンボルカラー。デモ中などは誤解を避けるため、旅行者はこの 2 色の衣服を避けたほうがよさそう。タイの人々は親日的で優しい性格。何かを尋ねられて「知らない」と言えず、不正確な答えをすることが多い。タイ王室は国民に敬愛されている。王室への「不敬罪」という法律があるため、国王などの批判はしないこと。

休憩をはさみ 2010 年以来、日本の数々の写真コンテストで入賞・入選を果たしているタイ人写真家セッタポン・トリチョープ氏が、タイ各地で撮影した秘境などの写真をスライド上映した。



(記／高嶋ちぐさ、撮影／水本俊也)

JPS ブック レビュー

協会に寄贈された会員の出版物を到着順に掲載致します。
(2015・2月～4月)

- ①発行所 ②発行年月
③サイズ(タテ×ヨコ)、頁数
④定価 ⑤寄贈者
⑥電子書籍ストア



雪国春耕 橋本紘二

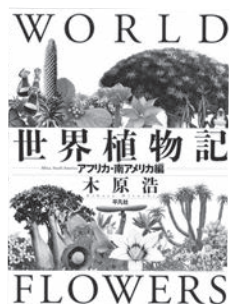
- ①農山漁村文化協会 ②2015年2月
③26.4×19cm、143頁
④3,600円 ⑤橋本氏



「1,700人の交響詩」 —一九七〇年代のマンモス校— 横須賀市立池上中学の教育記録

英 伸三

- ①JCII フォトサロン ②2015年3月
③24×25cm、31頁 ④800円
⑤発行所



世界植物記 アフリカ・南アメリカ編

木原 浩

- ①平凡社 ②2015年3月
③30.4×22.5cm、288頁
④6,800円 ⑤発行所



重森三玲の庭園 水野克比古

- ①光村推古書院 ②2015年2月
③30.7×23.6cm、128頁
④3,800円 ⑤発行所



しろさびとまっちゃん 太田康介

- ①KADOKAWA メディアファクトリー
②2015年2月 ③17.3×18.2cm、96頁
④1,100円 ⑤発行所



一度は見たい桜 森田敏隆、宮本孝廣

- ①光村推古書院 ②2015年3月
③17×17cm、167頁
④1,800円 ⑤発行所



観世清和と能を観よう 小野幸恵、 写真・林義勝、他

- ①岩崎書店 ②2015年3月
③28.7×21.5cm、55頁
④3,000円 ⑤林氏



コンテストに役立つ 極上インクジェット プリント入門 小城崇史

- ①朝日新聞出版 ②2015年2月
③27.7×21cm、128頁
④1,800円 ⑤小城氏



物理学への招待 橋本健作

- ①ケンブリッジ・ブックス
②2014年5月 ③25.7×18cm、224頁
④2,222円 ⑤橋本氏



写真家になるために 亀村俊二

- ①亀村俊二 ②2015年3月
③27×21cm、90頁 ④ -
⑤亀村氏



FARUKH RUZIMATOV 瀬戸秀美

- ①博進堂 ②2014年12月
③37×29.7cm、168頁
④50,000円 ⑤瀬戸氏



立山連峰と自然風景

前佛 勇

- ①前佛 勇 ②2015年
③21 × 21.3cm、62頁
④ - ⑤前佛氏



野鳥撮影のバイブル

和田剛一

- ①玄光社 ②2015年4月
③28 × 21cm、130頁
④1,800円 ⑤発行所



NUDE WOMAN

中村正也

- ①JCIフォトサロン ②2015年3月
③24 × 25cm、31頁
④800円 ⑤発行所

「イタリアの最も美しい村」
全踏破の旅

吉村和敏

- ①講談社 ②2015年3月
③21 × 14.8cm、447頁
④3,800円 ⑤発行所



太陽の花

横塚眞己人

- ①フレーベル館 ②2015年3月
③21.7 × 27cm、34頁
④1,400円 ⑤横塚氏



初めてのアンコール遺跡

BAKU 斉藤

- ①草土文化 ②2015年3月
③22.7 × 16cm、96頁
④1,800円 ⑤発行所



芦屋桜

川廷昌弘

- ①ブックエンド ②2015年2月
③19.5 × 19.5cm、80頁
④2,000円 ⑤川廷氏



欧州鉄道の旅

櫻井 寛

- ①BS FUJI 宝島ワンダーネット
②2014年 ③29.7 × 21cm、80頁
④ - ⑤櫻井氏

奈良を愉しむ
奈良 大和路の桜

写真・案内・桑原英文

- ①淡交社 ②2015年3月
③21 × 15cm、120頁
④1,600円 ⑤桑原氏

江戸東京
四季の花を撮ろう

萩野矢慶記

- ①日本カメラ社 ②2015年4月
③28 × 21cm、131頁
④1,850円 ⑤萩野氏

(電子書籍)
花のアート作品集Ⅱ
～植物をアートに表現する15の撮り方～

夏梅陸夫

- ①アイロゴス ②2015年3月
③ - ④500円
⑤夏梅氏 ⑥amazon. 他



ニッポン灯台紀行

岡 克己

- ①世界文化社 ②2015年4月
③21 × 15cm、175頁
④1,800円 ⑤岡氏



アラヤシキの住人たち
本橋成一

- ①農山漁村文化協会 ②2015年3月
③21.7×21.7cm、36頁
④1,600円 ⑤本橋氏



瞬間の顔 Vol.7
山岸 伸

- ①山岸伸写真事務所 ②2015年3月
③18.2×25.8cm、143頁
④1,852円 ⑤山岸氏



真昼の星への旅
水越 武

- ①新潮社 ②2015年3月
③30.5×31.2cm、144頁
④30,000円 ⑤水越氏



**よつごのこりす
はるくんのおすもう**
西村 豊

- ①アリス館 ②2015年4月
③25.7×19.7cm、40頁
④1,400円 ⑤西村氏



広重と清親
—清親没後100年記念
撮影・中川喜代治

- ①太田記念美術館 ②2015年4月
③29.7×22.3cm、180頁
④ - ⑤中川氏



**山岸伸のポートレート
写真を志す人へ**
山岸 伸

- ①朝日新聞出版 ②2015年4月
③27.7×21cm、98頁
④1,400円 ⑤山岸氏



**Nikon D7200
完全マスターガイド**
表紙写真撮影・茂手木秀行、
本誌撮影 文・小城崇史

- ①朝日新聞出版 ②2015年4月
③27.7×21cm、128頁
④2,000円 ⑤小城氏



数字で斬る！新幹線
結解 学

- ①ネコ・パブリッシング ②2015年4月
③25.7×18.2cm、114頁
④648円 ⑤発行所

寄 贈 図 書

農山漁村文化協会殿……………文・花戸貴司、写真・國森康弘・
ご飯が食べられなくなったらどうしますか？
須田慎太郎殿……………日光東照宮
大上敬史殿……………熊野を駆ける
成山堂書店殿……………中田安治・すばらしき、アメリカントレイン
弘中鴻象殿……………黙示録2015
日本カメラ社殿……………倉茂義隆・43年の夢、高橋健次・琵琶湖

(公社)日本広告写真家協会殿……………年鑑 日本の広告写真2015
ニッコールクラブ殿……………ニッコール年鑑2014-2015
平凡社殿……………現代デザイン事典2015年版
日本児童出版美術家連盟殿
……………一般社団法人日本児童出版美術家連盟作品集
WHO'S WHO No.7 創立50周年記念号
東京写真記者協会殿……………第55回2014年報道写真展 記念写真集

受賞おめでとうございます。今後ますますの活躍をご期待申し上げます。(50音順)



■日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2014「ピープル部門最優秀賞」受賞 平成27年3月16日
受賞者：飯塚明夫（1994年入会）
タイトル「e-waste 廃棄場の労働者」に対して。



■日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2014「ネイチャー部門優秀賞」受賞 平成27年3月16日
受賞者：榎並悦子（1994年入会）
タイトル「終焉-晩秋のごん」に対して。



■平成27年「日本写真協会賞功労賞」受賞 平成27年6月1日
受賞者：川口邦雄（1974年入会）
自然に対する幅広い知識に裏打ちされた独自の個性により、半世紀以上に渡り山岳写真に大きな存在感を示してきた。その長年に渡る写真界への貢献に対して。



■第34回土門拳賞受賞 平成27年4月17日
受賞者：下瀬信雄（2010年入会）
『結界』は山口県・萩市周辺の自然を繊細に撮り続けた大判フィルムによるモノクローム作品。自然を前にして人が恐れを抱き、祈りを感じる「空間」の一瞬を撮りためてきたもの。「生と死」をテーマに自然の怖さと美しさを2011年3月11日を経験した写真家として見事に写し撮り、見るものに驚きをもたらした。



■平成27年「日本写真協会賞功労賞」受賞 平成27年6月1日
受賞者：鏑山英次（2006年入会）
東京新聞写真部員として活躍し、退職後は武蔵野を流れる野川の再生や津軽の撮影など、写真と社会との融合を考え活動してきた。その長年の功労に対して。



■第46回「講談社出版文化賞写真賞」受賞 平成27年5月27日
受賞者：中井精也（2002年入会）
写真集『1日1鉄！』（インプレスジャパン刊）に対して。

■平成27年「日本写真協会賞新人賞」受賞 平成27年6月1日
「1日1鉄！」や「ゆる鉄」などにより鉄道写真にイノベーションを巻き起こし、更に社会性の濃い表現も追求するなど、鉄道写真の可能性を切り開いてきた。その馬力と牽引力溢れる制作活動に対して。



■第56回CBCクラブ文化賞（くちなし章）受賞 平成27年2月3日
受賞者：中川幸作（1990年入会）
一芸に徹し、名古屋の音楽・美術工芸界になくはない存在であり、写真を通じて舞台、美術作品の魅力を広く社会に伝えてきた功績に対して。



■日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2014「ピープル部門優秀賞」受賞 平成27年3月16日
受賞者：丸山 耕（2013年入会）
タイトル「我が子を思う」に対して。



■平成27年「日本写真協会賞作家賞」受賞 平成27年6月1日
受賞者：南川三治郎（1972年入会）
美術家や作家の創作現場を捉えた初期の作品から、近作の伊勢神宮をテーマとした作品まで、被写体やテーマと真摯に向き合う姿勢と周到な取材で、たゆみない撮影を重ねてきた。その長年の写真制作活動に対して。



■第31回写真の町東川賞「特別作家賞」受賞 平成27年8月8日
受賞者：吉村和敏（2014年入会）
写真集『CEMENT』（ノストロ・ボスコ、2010年）に対して。



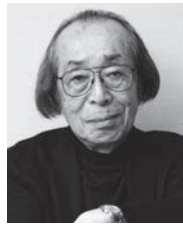
窪田 正克 正会員

2015年1月3日、肺炎のため逝去。84歳。
平成13年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

地方で活動する作家の規範となる生き方 水越 武

この二、三年、知人友人を悼悼する文章を書く機会が多くなった。自分の歳を自覚する。今年の年明け早々に窪田正克さんが84歳で冥界に旅立たれた。同じ道東で暮し、知床半島など撮影するフィールドも対象も重なることもあって、何度かお会いした。この度の訃報に接して、窪田さんが私より10歳近く先輩であることを初めて知った。写真以外の仕事も精力的にこなされているとお聞きしていたが、いつも新しいテーマに挑戦され、髪も黒々と豊かだった。生前にもっと道東の動物の移り変わりなど、昔の話を伺っておけばよかったと悔やまれる。初めて窪田さんの作品に注目したのはずいぶん古く1970年代だった。森林の撮影で信州から北海道を訪れても、エゾシカなど見るのも困難な時代にエゾシカの写真を出されていた。エゾシカは1930年代には一度は絶滅したと考えられていたが、阿寒湖周辺の深い森の中でひっそりと生きていた。それが少しずつ個体数を増やしていった。まだ珍しい動物であったエゾシカを、窪田さんは時代に先駆け発表された。当時平凡社から出ていた雑誌「アニマ」を舞台に目覚ましい活動をされた。エゾシカや知床のヒグマなども窪田さんがもっとも早く取り上げ、写真集として纏められた。パイオニアになる者と次に続く者とはそれほど差がないと思いがちだが、実際は仕事の重みに相当の隔たりがあるものだ。その他「銅路湿原」も「知床」の仕事も、それぞれの地域の生態系の違いを視野に入れた心打たれる写真集であった。

窪田さんの生き方は、地方で活動する写真家の一つの規範となる立派な人生であったと私には思われる。本当にご苦労さまでした。合掌



木之下 晃 正会員

2015年1月12日、虚血性心不全のため逝去。78歳。
昭和46年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

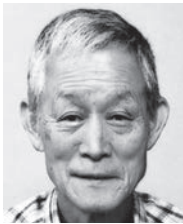
音を愛し、至上の写真を目指した写真家 松本 徳彦

訃報を聞いたとき、あつというより「あつ駄目だったか」という思いで身震いた。昨夏ころから、「からだの調子がちょっとね。また手術をしなくては…」と話していたことが気になってはいた。展覧会で会ったとき「3回も手術だったが、上手くいったよ」との元気な声に安心していたが、それにしても急逝すぎた。

木之下さんは音楽家の写真では、カラヤンをはじめとする世界の著名指揮者や演奏家のほすべてを、また世界の名だたるオペラ劇場を、世界中を飛び回って撮影するなど、世界にもまれな偉大な写真家であった。その精力的な作品の結晶は、数十冊に及ぶ写真集に結実している。

音楽を愛し、つねに至上の写真を目指し、音と人との対話をするかのような撮影姿勢から生み出された作品群は、多くの音楽家に愛され、読者たちにも熱狂的なファンが誕生するまでであった。

あなたに初めて会ったのは、1971年銀座松屋前のニコソサロンであった。芳名帳に署名するなり、「松本さんですか」と旧知のごとき親しき声をもって声をかけてくれた。互いに舞台写真を撮っていたことで、会場のソファで初対面とは思えない会話をしたことが思い出される。最初の心臓手術をした虎ノ門病院でも、大手術であったにもかかわらず、次の撮影目標を確立し語り、以後は、登茂枝夫人の運転するマイカーで重い器材を運び、夫唱婦隨で舞台撮影に精を出していた。86年に彼が受賞した芸術選奨文部大臣賞の祝宴のとき、木之下夫妻と同席した盟友の英伸三夫妻、それに私達夫婦が同じ昭和11年生まれということから、300歳の会をつくり、旨いものを食べたり、写真展を催すなど知己を深めていたのに残念でならない。ご冥福をお祈りします。合掌



ふるた 信晴 正会員

2015年1月13日、ガンのため逝去。80歳。
平成5年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ふるたさんよ、安らかに眠れ！ 藤本 俊一

また、同じ世代の友が旅立っていった。一緒に関西での活動を語り合い、支え合ってきた友人である。日頃温厚で物静かな彼とは思えない様な、激しい写真好き人間で、得難いキャラクターの人であった。

早くから得意の写真企画を中心に多くの写真界の活動に係わり合っていた。熱心さと人柄の良さが実績として認められ、多くのファンが周囲に存在し、亡くなるまで、その育成に努力した彼の写真人生は素晴らしいものと評価され、彼自身も満足して旅立った事であろう。独自の写真理論を持ちながら、他人との協調に努め、結果を出す得た人であった。

近年、仕事の関係で沖縄に足を延ばし、そこを根拠地として色々の活動を行ってきた。先輩みたいな小生を立ててくれる義理堅さを持ち、珍しい採りたての「ミニマンゴー」なる初物を送ってくれ、家族で食したときの美味しさがいまだに忘れられない。彼の面影と重なって思い出される仲間であった。沖縄には生粋大阪人の大塚勝久さんが移り住み、大変な苦勞を乗り越えて、素晴らしい活躍をされて海外へ沖縄を紹介し、素晴らしい評価を得ている。また、沖縄から大阪に移り住んで、大阪人より浪速を確りつかみ、大阪城の四季など多く素晴らしい出版物を発行したJPSの仲間がいる。この様にふるたさんも大阪精神を発揮して、沖縄の地に文化の拠点を植え付けていたのだ。沖縄とは、相性が良いのかもしれない。そんな向学の精神には頭が下がる。

美しいものへの探求心は、紺碧の沖縄の海が彼の心に響いたのであろうか、その面影も、風も香りと共に便りに乗って届いてきた。人間写真家の真髄を私たちに残してくれた得難き仲間を失ったのは本当に悲しい。写真の世界で数多き友の中で、先だつた彼が残してくれた、思い出とその生き様に、自分の生き方への指針を読み取り、心打たれる。ふるたさん。ありがとう！安らかに眠って下さい。

合掌



佐藤 正治 正会員

2015年2月7日、逝去。84歳。
昭和46年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

後進の育成に尽力された写真家 安藤 豊

佐藤正治先生は、日本カメラの副編集長を務めた後フリーの写真家となり、以降長きにわたり女子美術大学で教鞭を執り、多くの写真家を世に送り出した。写真の撮り方の著書を多く執筆し、また長年オリンパスカメラクラブ(現フォトパス)やNHK学園などをはじめ、多方面で写真愛好家の指導にも情熱を傾けていた。

以前、オリンパスカメラクラブ仙台支部と千葉支部の合同撮影会の折、厳冬の猪苗代湖でマイナス10度以下の気温の中、夜明け前から現場を確認して、参加者に気さくな撮影指導をしながら、一緒に撮影していた姿が今も色濃く記憶に残っている。

また、もう30年以上前のこと、僕は駆け出しで、月刊誌に海岸線を描いて連載していた頃お会いしたとき、編集者目線で色々アドバイスを頂いたことがあった。帰り際「毎号楽しみにしているよ」と掛けてくれた言葉が印象的だった。

僕の師匠の弟分を自称し、叔父貴のような存在で、JPSに入会を薦めたのも佐藤先生でした。プロ・アマ問わず、佐藤先生が育てた写真家は数多く、写真家を育てる写真家として、たぐい稀なる存在でした。

2月11日、武蔵野三十三観音の一つ、法光寺にて葬儀は執り行われた。ご冥福をお祈りし感謝の言葉とさせていただきます。合掌



安達 一郎 正会員

2015年3月26日、大腸ガンのため逝去。
76歳。

昭和63年入会

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

追悼 安達一郎さん

柳原 茂光

安達一郎さんの訃報を知ったのは写真家協会からのファックスですが、前日に安達さんと共に仕事をしていた元編集者の方からの電話でした。

10年以上お逢いしていませんでしたが、昔を思い起こしてみました。酒を飲みながら話したこと、仕事への思い入れです。美術系の教科書出版社ですが、安達さんは中学校美術科、私は小学校図工科の撮影で、一緒にすることは殆どありませんでしたが、池袋の事務所へ何度かお邪魔したことを思い出します。

同じ美術の教育出版にご一緒出来たこと、嬉しく思っております。

安達一郎さん、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

経過報告 (2014年10月~2015年2月)

- ◎10月26日 平成26年度第2回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」
AM9:30~17:00 大阪府・大阪芸術大学スカイキャンパス あべのハルカス24階 教師参加者23名
- ◎10月27日 三団体懇談会
PM6:00~8:00 公益社団法人日本広告写真家協会
- ◎11月8日 第8回JPSフォトフォーラム
AM10:00~15:20 有楽町朝日ホール 参加者643名
- 「スナップショット」パネリスト・大西みつぐ、齋藤康一、田沼武能
- ◎11月20日 第2回著作権研究会
PM1:30~4:30 大阪市中央区本町愛日会館 参加者77名
- デジタル時代の著作権と肖像権
- ◎12月10日 第40回日本写真家協会賞贈呈式
PM5:00~5:15 アルカディア市ヶ谷
- 受賞者・株式会社アイデア
- ◎12月10日 第10回名取洋之助写真賞授賞式
PM5:15~5:30 アルカディア市ヶ谷
- 受賞者・高橋智史、中塩正樹(奨励賞)
- ◎12月10日 平成26年度会員相互祝賀会
PM6:00~8:00 アルカディア市ヶ谷 参加者331名
- ◎12月22日 出版広報座談会
PM4:00~6:30 JCI会議室 7名
- ◎1月30日~2月5日 2014年第10回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(東京展)
富士フィルムフォトサロン東京 入場者7,590名
- ◎2月4日 page2015オープン・イベント・JPSセミナー
PM1:30~4:30 池袋サンシャイン文化会館 参加者116名
- いまは写しても、過去を撮ることはできない
- ◎2月8日 第2回国際交流セミナー
PM1:00~4:00 千代田区立日比谷図書館ホール 参加者110名
- フォトジャーナリストが伝える世界
- ◎2月20日 新入会員入会資格審査会
PM1:30~4:00 JPS会議室 10名

編集後記

◎今回のFocusでは「問われる写真家の倫理観—報道写真の加工とやらせ問題」をDAYSJAPAN発行人の広川隆一さんに書いていただいた。この問題が世に知れてから2ヶ月、今度はFIFA幹部らによるサッカーワールドカップに絡む巨額汚職事件が報じられた。不正は必ず明るみに出る、スポーツ・報道に係る者はこれを機会に襟を正して欲しいものだ。
(小池)

◎前回に続いてJPS総会の書記を務めた。総会後にJPS創立65周年を記念して、在籍40年以上の正会員に感謝状が贈呈された。錚錚たる実績の先輩写真家たちに圧倒されたが、自分も今年で在籍20年。もう20年なのか、まだ20年なのか。
どちらにしてもあと20年はかなりきつそうだ。
(飯塚)

◎FIFA女子ワールドカップカナダ大会が現地時間の6月6日から始まります。前回2011年のドイツ大会では、なでしこジャパンは劇的な勝ち上がりで優勝し、震災後の日本に力を与えてくれました。連覇の期待がかかる今大会です

が、各国の強化と日本対策も進み断を許しません。本誌が発行される頃には決勝トーナメントに進んでいるはず。頑張れ、なでしこジャパン!
(関)

◎建築ガイドブックの企画で各地の近代建築を訪ねた。なかには15年来再会の建物もあった。綺麗に塗装されたり、植栽が成長あるいは伐採され様子が変わったものがある一方で、以前と全く変わらない建物もあった。どれも所有者の方々は大切にしていることが感じられ、20年後にでもまた訪ねてみたい。
(小野)

◎ある写真展のオープニングパーティーに呼ばれ、久しぶりに渋谷に行きました。高層ビルから下を見下ろすと駅周辺は工事の真っ最中。渋谷の夜景と合わせて「移りゆく姿」をまるで何かの見世物のように楽しむことができました。毎日定点観測したら楽しいだろうと考えるのは、やはりこの仕事をしている人間の性でしょうか。
(小城)

◎ソウル、北京、ホーチミンのカメラショー取材。お国柄とともにカメラショーの様子もユーザーも大きく違っていた。中でも発展著しいベトナムは、ショーの規模はまだまだ小さいものの、来場者が若くて活気に満ちている。日本の

カメラショーがまだデパートで開催されていた頃ののどかさがい。今後は楽しみたい。(柴田)

◎この会報の編集作業中に突然の会長交代。総会で会長交代が発表された時は、本当に驚きました。私が会員になった頃に、田沼さんも会長になられたとお聞きしました。それから20年、本当にお疲れさまでした。今後は、保存センター担当理事として、写真界全体のためのお仕事をなさそうです。いつまでもお元気で現役でいてください。
(伏見)

◎島津斉彬が日本で初めて写真撮影したとされる6月1日には「写真の日」として、カメラグランプリ表彰式など、写真関連の催しがありました。後に6月1日は誤りと判明しましたが、制定したこともあり、現在そのまま運用されています。…写真トリビアでした。
(桃井)

◎インドのフォトフェスティバルに作品が展示されるというので行ってきました。日本から送ったデータがどのようにプリント、展示されるのか不安でしたが、現場を訪れてびっくり。美術館の中庭を使った屋外展示は、緑に囲まれ鳥のさえずりが聞こえる中、時々刻々と光が変わる素晴らしい環境。大判プリントの出来も申し分のないものでした。
(山縣)

日本写真家協会会報 第159号 (年3回発行) 2015年6月20日 印刷・発行 ©編集・発行人 熊切圭介

URL <http://www.jps.gr.jp/> Email info@jps.gr.jp 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒価 1カ年・3回 3,500円(消費税・送料共込)

出版広報委員 小池良幸(理事)、飯塚明夫(委員長)、関 行宏(副委員長)、小野吉彦、小城崇史、柴田 誠、伏見介、桃井一、山縣 勉

発行人 公益社団法人日本写真家協会 (JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIビル303 電話 03(3265)7451(代表) FAX 03(3265)7460

印刷所 株式会社光邦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番18号 飯田橋MKビル 電話 03(3265)0611(代表)

Topics



Mr. Keisuke Kumakiri has positioned as the VI President of Japan Professional Photographers Society.

At the No. XVI General Meeting of May 22, the reelection of the director following to the termination of period. After the General Meeting, Mr. Keisuke Kumakiri was elected as the representative director (former vice-president). With this election, he took the possession of the 6th president after Mr. Takeyoshi Tanuma, who continued 20 years from 1995, and he took the possession as VI president since established the JPS. The new President Mr. Kumakiri has the achievement for 24 years as the Vice President in charge of general activities. Mr. Norihiko Matsumoto assumed as the Vice-president (former Senior director), Katsuhiko Yamaguchi as Senior director (former general director).

About the Japan Professional Photographers Society

The Japan Professional Photographers Society was established in 1950. Through its activities it strives to define the role of the professional photographer and secure copyright protection while working to develop photographic culture. In 2001 it received recognition as an Incorporated Body from the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, in March 2011 it was officially recognized as being a Public Interest Incorporated Association by the Prime Minister's office, and since April 1 of that year it has been active under the title, Japan Professional Photographers Society, Public Interest Incorporated Association.

Since its foundation, the society has succeeded in receiving an extension for the period of copyright protection (to 50 years after the death of the artist), held numerous exhibitions concerning photographic history and expression (A Century of Japanese Photography, History of Japanese Contemporary Photography, Sixty Years of Japanese Children, Women, etc.), and published numerous books on photographic history and collections of photographs. In order to contribute to the promotion and development of photographic culture, it holds the JPS Exhibition as an open exhibition, presents a nationwide Photography Study Pro-

Do you know – Atomic bombs Photo Exposition of Hiroshima and Nagasaki ?

The Japan Professional Photographers Society opens the photo exhibition at "the Japan Photo Conservation Center", JCII Photo Salon, Chiyoda ward Tokyo during August 4 through 30. This Exhibition is organized mainly by the photographs immediate after the release of atomic bombs in August 1945, took the pictures by Yoshito Matsushige and Yosuke Yamahata and with others photos and organized by 60 photographers including 11 photographers took the photographs about 3 months, August to end of October from atom-bombed area. The characteristic of this exposition is mainly made from printing directly from the analog print paper and expressed printed directly and thus the visitors could capture the real of the damage from the atomic bomb.

The conservation center aim to let know the audience the misery of the atomic bombs through this photo-exposition, aiming the world nothing with atomic bombs. Also, the lecture by Miss Bun Hashizume, atomic bomb victim and narrator is scheduled to take place on August 5, from 14:00 - 16:00.

At this exposition, including Matsusige and Yamahata the works of Toshio Fukada, Mitsugi Kishida, Masami Onuka, Yotsugi Kawahara, Hajime Miyatake, Shunkichi Kikuchi, Shigeo Hayashi, Tsuneo Tago, Yuuichiro Sasaki and other works will be exhibited.

International Affairs Committee
Executive Director, Naoki Wada

gram for elementary school students, the Photo Forum that aims to develop photographic expression, Digital Photography Lectures for the advisors of high school photographic clubs, and presents the Yonosuke Natori Photographic Award to uncover and foster new talent. At the same time, it carries out a wide range of activities to contribute the development of photographic culture, such as: cultural exchange with overseas photographers, PR through publishing and information dissemination via the Internet.

Furthermore, it presents the Japan Professional Photographers Society Award in recognition of individuals or organizations who have achieved notable achievements in the development of photographic technology, education, or critique.

The Japan Professional Photographers Society has devoted itself to the establishment of photographic museums, such as the Tokyo Metropolitan Museum of Photography, and is currently actively working towards the creation of the 'Japan Photographic Preservation Center' (archive) for the collection and preservation of original photographs.

Japan Professional Photographers Society

JCII Bldg. #303, Ichibancho 25, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

Tel: +81-3-3265-7451 Fax: +81-3-3265-7460

E-mail: info@jps.gr.jp Web site: <http://jps.gr.jp/int/index-e.html>



焦点距離:15mm 露出:F/14 1/10秒 ISO100 © Ian Plant

迫りくる、ディテールの存在感。

SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD

[Model A012]

光学性能を極めた大口径F/2.8超広角ズームレンズに、
世界初*、手ブレ補正機構を搭載。

Di:35mm判フルサイズ、APS-Cサイズ相当デジタル一眼レフカメラ用レンズ
希望小売価格 140,000円(税抜) 一体型フード(花型・ズーム連動式)
発売中:キヤノン用/ニコン用 順次発売予定:ソニー用**

*35mm判フルサイズ対応のデジタル一眼レフカメラ用大口径F/2.8超広角ズームレンズにおいて、(2015年3月現在、タムロン調べ)
**ソニー用は、ソニー製デジタル一眼レフカメラがボディ内に手ブレ補正機構を搭載しているため、手ブレ補正機構「VC」を搭載していません。

 タムロンレンズ お客様相談窓口 ナビダイヤル
0570-03-7070

受付時間 平日9:00~17:00(土日・祝日・弊社指定休業日は除く)※一般電話から市内電話料金にてご利用いただけます。
ナビダイヤルをご利用できない場合のお問い合わせ先 TEL 049-684-9889 FAX 049-689-0538

東京修理受付窓口
〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番22号 上野TGビル3階 TEL 03-5817-7210 FAX 03-3837-1790
株式会社タムロン タムロンは、様々な産業分野において精密、高品質な光学製品を創出し、社会に貢献しています。

www.tamron.co.jp



TAMRON®

産業の眼を創造貢献するタムロン



At the heart of the image



ニコン史上 最高画質

総合画質を極めた 3635 万画素

撮像素子、画像処理エンジン、ピクチャーコントロールシステム、そして、高解像 NIKKOR レンズ。総合画質を極めたニコンだからこそ表現できる世界がある。シーンを選ばない、被写体を選ばない圧倒的な撮影力。総合画質のニコン D810。

デジタル一眼レフカメラ

D810

■ 有効画素数3635万画素 ■ 新開発のニコンFXフォーマットCMOSセンサー ■ 画像処理エンジン EXPEED 4 ■ 常用撮像感度 ISO 64~12800 ■ 進化したピクチャーコントロールシステム ■ 高精度 AF ■ 電子先幕シャッター ■ 約5コマ/秒*の高速連続撮影

*CIPAガイドライン準拠。FXフォーマット時。DXフォーマットでEN-EL15以外の電源使用時は約7コマ/秒。

D810 価格：オープンブライズ

D810 24-85 VR レンズキット 価格：オープンブライズ 内容：D810、AF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VR

D810 24-120 VR レンズキット 価格：オープンブライズ 内容：D810、AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR

●記録媒体は別売です。



ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000

一般電話から市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日) ●お電話番号が利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。 ●ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499へご連絡ください。

www.nikon-image.com | 株式会社 ニコン・株式会社 ニコン イメージングジャパン

9000万本
NIKKOR

RICOH
imagine. change.

孤高の頂へ。

見る者を圧倒する、解像力。
そして豊かな諧調と描写力。
画質と機動性の両立を図り、
645Zは未知なる領域に挑む。

PENTAX 645Zの特長

- 有効約5140万画素&43.8×32.8mm大型CMOSセンサー
- -35~125°のチルト式液晶モニター&ライブビュー
- 連続撮影約3コマ/秒、クイックビュー高速化(645D比)
- IMAGE Transmitter 2により撮影画像をPCへ高速転送
- Full HD動画撮影&4Kインターバル動画撮影
- 防塵・防滴構造 & 高耐久メカ機構

PENTAX
645Z



【2014 グランプリ】竹沢 うるまさん「スピティ谷の女」撮影地：インド・テムル

作品募集が始まります

国際的に活躍できるドキュメンタリー写真家を発掘し、日本から世界へ送り出したい——。そんな願いを込めて毎年開催している日経ナショナルジオグラフィック写真賞。

第4回目にあたる2015年の作品募集が、いよいよ6月から始まります。今年も自然や人間のありのままの姿を写した、美しく驚きと発見に満ちたドキュメンタリー写真のご応募をお待ちしています。

詳しくはナショナル ジオグラフィック 日本版7月号をご覧ください。

グランプリ受賞者(1名)には、賞金100万円と副賞のほか、
米国ニューヨークの写真ギャラリーでグランプリ受賞者個展を開催するチャンスが与えられます。

詳細は「ナショナル ジオグラフィック 日本版7月号」もしくは
nationalgeographic.jp をご覧ください

FUJIFILM

Value from Innovation



フィルム。 実感する写真。

カメラに装填したフィルムを巻上げる独特のリズムと緊張感。
シャッターチャンスをもたらすのは、知識と経験、そしてわずかな幸運。
仕上りはスライドやプリントで、確かな作品として残る。リアルな手応えと、
180年余りにおよぶ銀塩写真文化を継承する実感がここにあります。

いま、銀塩写真を堪能するために。富士フィルムのプロフェッショナルフィルム・ラインナップ。



フジクローム ベルビア 50
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10



フジクローム ベルビア 100
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10



フジクローム プロビア 100F
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10



フジカラー プロ 400H
135(35mm 36枚撮) 1本
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック



ネオパン アクロス 100
135(35mm 36枚撮) 1本/3本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10

その他：フジクローム プロビア400X 135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック 120(6×6cm 12枚撮) 5本パック、フジカラー 160NS 120(6×6cm 12枚撮) 5本パック 220(6×6cm 24枚撮) 5本パック シート(20枚入) 4×5/8×10

●フィルムについてのお問合せは…富士フィルム イメージングシステムズ株式会社 プロ営業支援グループ 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-32 TEL.03-6417-3769

●富士フィルム製品のお問合せは…「お客さまコミュニケーションセンター」まで。TEL.050-3786-1711 受付時間：月～金/9:00～17:40、土/10:00～17:00(日、祝日、年末年始は休み)

外に向かって…

MASH
+
MASHmanagement
+
MASHcreative

日本で、グローバル化、国際化が話題になってずいぶんと時間がたちました。

つねづね思うのですが、日本のフォトグラファーのグローバル化、国際化は、結構遅れていると思います。

原因は簡単です。それは言葉です。英語です。

英語ができれば、世界はひろがります。

MASHにも、いろいろな国から英語で売り込みがあり、コンタクトがあります。

このままでは、日本のフォトグラファー、ガラ携のようになってしまうかも…

JPSのみなさん、例えば2020年の東京オリンピックに向かって、英語の準備は怠りなく。きっと、世界は広がり、仕事もひろがると思います。

株式会社マッシュ

市ヶ谷スタジオ・オフィス
東京都新宿区市谷本村町 2-23
京都荘ビル B1

〒162-0845

TEL 03-3269-6368

FAX03-3269-1774

原宿マネージメントオフィス
東京都渋谷区神宮前 6-35-3
コープオリンピア #317

〒150-0001

TEL 03-6418-0886

FAX03-6418-0887

www.mash.vg / info@mash.vg

写真集電子出版サービス

Di-Po

パンフレット
無料配布中!

写真集出版と写真展開催 2つの夢を同時に叶えるサービス

Di-Po **3**つのメリット

企画
制作

写真と電子出版のプロが
写真集の企画から出版まで
サポート致します。

写真展

Di-Poで出版された方は、
フォトギャラリー・アルティザンにて
出版記念写真展を開催いただけます。

流通
販売

流通や販売に関する複雑な手続きを
すべて弊社が管理致します。

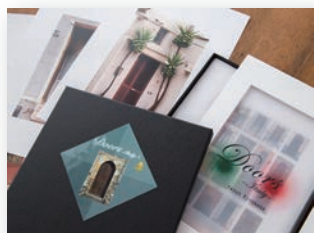
Di-Po作品
Kindleにて
好評発売中!!



清永安雄
『POMPEI』



清永安雄 **New**
『Doors -Italy-』



“写真を飾る”をカタチにした写真集『B.B Photography』

Photo Gallery Artisan は“写真を飾る”を提案する新しい写真集『B.B Photography』を発売しました。『B.B Photography』は、A4サイズの上質紙に印刷された作品22点、表紙、インデックスとマット紙をセットにし、蓋付きのボックスにおさめた写真集です。マット紙を好きな作品の上に重ねれば、箱をフレーム代わりにそのまま棚の上などに飾ったり、作品をフレームに入れて飾ったりすることができます。出版をご希望の方は、『B.B Photography』のみでも可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

ARTisan

フォトギャラリー・アルティザン

Di-Po お問い合わせ | 担当: 相山 TEL : 03 (3470) 4570 MAIL : info@artisan-tokyo.com

トウキョウ | 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-21-10-1F TEL : 03 (3470) 4570 営業時間 : 11:00 ~ 19:00 (日曜 / 祝日休)

ジャパネスク | 〒605-0038 京都市東山区堀池町 373-44 TEL : 075 (746) 2931 営業時間 : 11:00 ~ 18:30 (日曜 / 祝日休)

WEB URL : <http://www.artisan-tokyo.com> MAIL : info@artisan-tokyo.com (共通)

PRIVATE LAB

作品のプリント制作に活用したい エプサイトの「プライベートラボ」

最新機材と12種類のペーパーが揃った、デジタルプリントのためのレンタルスペース
最大64インチ(約1,600mm)幅の用紙を使った大判プリントも可能

◆新宿駅から徒歩8分にある「エプサイト」

日本を代表する巨大ターミナルである新宿駅の周辺にはさまざまな写真関連メーカーのショールームや写真ギャラリーがあり、多くの写真愛好家が訪れています。

このうち、駅西口の高層ビル群の一角にあり、都庁舎にも近い新宿三井ビル1階にあるのが、インクジェットプリンターでおなじみのエプソン販売(株)が運営する「エプソン イメージングギャラリー エプサイト(epSITE)」です。

公募展や企画展が開催される「エプサイトギャラリー」を中心に、最新のプリンターやさまざまな用紙のプリント見本に触れられる「ショールーム」、プリント操作などに関するセミナーやワークショップが開催される「セミナールーム」、そして、最新のインクジェットプリンターで作品をプリントできる「プライベートラボ」が併設されています。

今回ご紹介するのがこのうちの「プライベートラボ」。作品プリントのためのレンタルスペースともいえるでしょう。最大で約1,600mm幅のプリントができるPX-20000や、2015年5月14日に発売されたA2ノビ/17インチ幅ロール紙対応プリンターのSC-PX3Vなどの機材が揃えられ、12種類のペーパーを使って、作品を出力することができます。

大判プリントにも対応した出力サービスはほかにもありますが、通常はデータ渡し基本となっているため、作家自らがさまざまな用紙をテストしたり、色味や調子を自分で細かく調整することはできません。

一方、エプサイト内の「プライベートラボ」はデジタルプリント機材と各種ペーパーが揃ったレンタルスペースですので、自分自身による制作で作品をプリントすることができます。そのため、プロ写真家やアマチュア写真家のほか、大判プリントを必要とするデザイナーなどにも利用が広がっています。

◆最新のプリント機材が使える「プライベートラボ」

「プライベートラボ」の機材を簡単に紹介しておきましょう。ワークステーションとしては、Microsoft® Windows® 7(64bit版)が搭載されたWindows®マシンと、Mac OS X Lion 10.7.5が搭載されたMac Proの2台が設置されていて、Adobe® Photoshop® CC 2014ほかのソフトウェアがそれぞれインストール済みです。

ディスプレイはカラーキャリブレーションに対応したEIZO社のColorEdge CG246が接続されています。また、プリントを正確に評価できるように、天井照明には演色性AAA/色温度5000°Kの美術・博物館用蛍光灯が使用されています。

プリンターは3台。最新のEpson UltraChrome K3インクを搭載し、A3ノビまでプリントできる「SC-PX5V II」と17インチ幅ロール紙を含むA2ノビに対応した「SC-PX3V」。そして、最大64インチ(1,626mm)幅の用紙に対応した最上位モデル「PX-20000」が設置されています。

また、スキャナー「GT-X980」を使って4×5までのフィルムのスキャンニングも可能です。



SC-PX3V

●印刷方式/最高解像度:MACH方式/2880dpi×1440dpi※1 ●インターフェイス:Hi-Speed USB※2×1(PC接続×1(背面)),10BASE-T/100BASE-TX,IEEE802.11b/g/n ●インク:顔料タイプ各色独立インクカートリッジ(フォトブラックまたはマットブラック※3、シアン、ビッドマゼンタ、イエロー、ライトシアン、ビッドライトマゼンタ、グレー、ライトグレー) ●対応用紙サイズ:L判/KG/2L判/ハイビジョン/六切/四切/半切/A6縦~A2ノビ縦(17インチ)、ファインアート紙・厚紙(フロント手差し)用紙厚1.5mm、専用ロール紙※4(A3ノビ~A2ノビ(17インチ)幅) ●外形寸法(幅×奥行×高さ)収納時:684×376×250(mm) ●質量※5:約19.5kg ●※1最小1/2880インチのドット間隔で印刷されます。 ●※2PC側がHi-Speed USBに対応していない場合はFull Speed USBとして動作します。 ●※3ブラックインク切り替え時は切り替える方のインクが消費されます。 ●※4ロール紙ユニットはオプションです。 ●※5他同梱物は含まれません。



「プライベートラボ」の様子（右手前のPX-5002はSC-PX3Vに入れ替え中）



さまざまなロール紙や単票紙を用意。手前は裁断作業などに使える作業スペース

◆ JPS 会員には利用料等の割引き特典を提供

「プライベートラボ」を利用するには、はじめにエプソンの「アドバンスメンバーズ」（登録料 5,000 円 / 年・税別）に登録が必要です。なお日本写真家協会会員は会員特典として登録は無料です（会員証をご呈示ください）。

次に、「プライベートラボ」の空き状況を確認したうえで利用申し込みを行います。利用できる時間帯は、午前中（10:30～12:30）、午後（14:00～16:00）、または 1 日貸切のいずれかです。基本料金は使用するプリンターによって異なります。なお、日本写真家協会会員は会員特典として基本料金は 10% 引きとなります（消耗品代には割引は適用されません）。

当日は画像データを持参し作業を進めます。必要な用紙類はスタッフに申し付ければ用意してくれますが、機器の操作やプリントは利用者が行う必要があります。また、プリントテクニック等に関する相談は受け付けていません。

「プライベートラボ」を使い終えたら基本料金（利用機材別設定）と消耗品代（インク代と用紙代）をエプソンの受付で支払います。クレジットカードでの支払いにも対応しています。料金などの詳細はエプソンにお問い合わせください。

料金の一例を計算してみます。日本写真家協会の会員が「SC-PX3V」を基本時間枠だけ使い、「Velvet Fine Art Paper」を選んで、A4 サイズ × 5 枚でテストプリント、A2 サイズ × 5 枚を本番プリントをしたとすると、

基本料金（10%引き、端数切捨て）	4,150 円
Velvet Fine Art Paper A4	370 円 × 5
Velvet Fine Art Paper A2	850 円 × 5
計	10,250 円（税別）

となります。

「プライベートラボ」は写真展に向けた作品制作や大判プリントの出力だけではなく最新プリンターの購入検討にも有用です。ぜひご利用ください。

◆ プライベートラボ基本料金表（プリンター / パソコン / モニターの使用代 / 税別）

利用機材	プライベートラボ 対応用紙サイズ	基本料金 /2 時間	延長料金 /1 時間毎
SC-PX5V II	A4～A3 ノビ	3,650 円	520 円
SC-PX3V	A4～A2、17 インチ	4,620 円	800 円
PX-20000	A1 ノビ～B0 ノビ、 60・64 インチ	6,700 円	1,040 円

※ スキャナーの基本料金等についてはエプソンのウェブページを参照してください。

◆ 消耗品代 / 単票紙（インク代を含む 1 枚あたりの料金 / 税別）

用紙種類	用紙サイズ		
	A4	A3 ノビ	A2
写真用紙 クリスピア（高光沢）	150 円	370 円	600 円
写真用紙（光沢）	140 円	350 円	430 円
写真用紙（絹目調）	150 円	350 円	430 円
フォトマット紙 / 顔料専用	110 円	260 円	290 円
Velvet Fine Art Paper	370 円	610 円	850 円
UltraSmooth Fine Art Paper	—	610 円	850 円
Fresco Giclee TypeR/S	510 円	1,140 円	—

※ ロール紙の消耗品代についてはエプソンのウェブページを参照してください。

◆ 住所・時間など

〒163-0401 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 1 階
TEL 03-3345-9881、FAX 03-3345-9883

開館時間 10:30～18:00

休館日 日曜日、夏期・年末年始

※ 設置機材、登録料、日本写真家協会会員に対する特典、用紙種類、利用時間、利用料（基本料金および延長料金）、消耗品代等は 2015 年 5 月末現在の情報です。これらは予告なく変更・改訂することがあります。

※ スキャナー（GT-X980）利用時の料金、単票紙およびロール紙の詳細と消耗品代、利用に関する注意事項、利用規約、申込用紙、予約方法などについては、エプソンのウェブページ（<http://www.epson.jp/epsite/>）を参照してください。

※ Mac、Mac OS は、Apple Inc. の商標です。Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。Adobe、Photoshop は、Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

エプソンと日本写真家協会では、日本写真家協会会員有志の皆様による「プライベートラボ」活用写真展（仮称）を 2016 年 1 月に開催する予定です。詳しくは本会報に同封の要綱をご覧ください。奮ってのご応募をお待ちしています。

プリントテクニック情報は、エプソンのフォトポータルサイトへ。 <http://www.epson.jp/katsuyou/photo/>

エプソン販売株式会社

ファインアート・プリント サービス開始

堀内カラーのネットオーダーサービス



インクジェット・プリントを極める ファインアート・プリントサービス

作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の7種類のアーティスト用紙でご提供します。

漆喰の特性をインクジェットに生かす
《フレスコジクレ》

- タイプS(スムーズ)/タイプR(ラフ)

繊細さと優雅さが特長の
《ハーネミュレ・ファインアート》

- ファインアート・パライタ/フォトラグ

インクの重なりが表情豊かに仕上げる
《ヴァンヌーボ》

- ファインアート・ヴァンヌーボSW

柔らかで優しい印象に仕上げる
《伊勢和紙 Photo》

- 雪色/芭蕉

デジタル銀塩プリントを極める ネット@eザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

プリント

- ペーパー：コダックプロ、メタリックの2タイプ
- サイズ：六ツ切～B1までの19タイプ
- フチ取り：白フチ、黒フチ、フチなしの3タイプ

パネル加工

- 高級アルミフレーム（額縁/シルバー、ブラック）
- マットパネル（オフホワイト、ブラック）
- ドライマウント

作品集やポートフォリオの制作に ネット@eザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高級銀塩写真とオンデマンド高精細印刷の各2タイプでオリジナリティ溢れる作品集ができます。

《PRO》シリーズ

- 高級写真タイプ：銀塩光沢印画紙+液ラミ
- サイズ/ページ：160SQ、A5、197SQ、A4、10～50p
- カバー：ソフト（ブックケース付）
ハード（くるみ表紙）

《ENJOY》シリーズ

- 高級精細印刷タイプ：表紙/マットPP加工
- サイズ/ページ：200SQ、A4、20～50p
- カバー：ソフト（並製本）、ハード（上製本）

個展・グループ展などの開催を受付けています。



HCL フォトギャラリー新宿御苑

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎03-3226-9602
●平日=10:00～19:00 ●土曜=10:00～17:00
●最終日=10:00～15:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
●地下鉄丸の内線「新宿御苑前駅」新宿門口より徒歩1分



HCL フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦 1-11-20 大永ビルディング 2F ☎052-211-6151
●平日=9:00～18:00 ●土曜=9:00～17:00
●最終日=9:00～13:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
●地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分

堀内カラー

フォトアートセンター
東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3358
フォトイメージングセンター (旧新宿事業所)
東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎(03) 3226-9581
青山サービスセンター
東京都渋谷区神宮前 3-41-6 ☎(03) 3479-5351
神田サービスセンター
東京都千代田区神田小川町 2-6-14 ☎(03) 3295-2191
東京サービスセンター
東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3321
名古屋サービスセンター
名古屋市中区錦 1-11-20 ☎(052) 211-6151
関西営業部
大阪府北区万歳町 3-17 ☎(06) 6313-2351

サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp

EPSON
EXCEED YOUR VISION

黒を究めると、
色が極まる。

新 Epson UltraChrome K3インク搭載



(A3ノビ対応プリンター)
NEW
SC-PX5V^{II}
オープンプライス
*2014年11月発売予定
EPSON ULTRACHROME
K3^{INK}

プロセクション史上最高画質へ。
待望の SC-PX5V^{II} 誕生

見えなかった黒が見えたとき、見たことのない美しさが生まれた。

新 Epson UltraChrome K3インクがもたらす黒の深化が、いまずべての色を進化させる。

さらに緻密で立体的になった表現力が、暗部から細部まであなたのイメージをより忠実に再現。

この黒の頂点から、あなたは果たしてどんな景色を見るのだろうか。

カメラを選ばないプリンター。 **Epson Proselection**
エプソンプロセクション

*オープンプライス商品の価格は取扱販売店にお問い合わせください。*この広告に記載の仕様、デザインは2014年10月現在のものです。技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。
[SC-PX5Vインクインフォメーション] **KDDIダイレクト** 050-3155-8100 (042-585-8444) 左記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスKDDI光ダイレクトを利用しています。左記電話番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本・NTT西日本の固定電話(一般回線)からあかいたたくか、かつこの番号におかけくださいますようお願いいたします。

ご購入はお近くの販売店 または **エプソンダイレクト** で検索 >> お電話でも **0120-956-285**

エプソンのホームページ <http://www.epson.jp> エプソン販売株式会社 セイコーエプソン株式会社



Photo Yoshimura Kazutoshi